

よ
み
ま
将
軍
し
ょ
う
ぐ
ん

『よみま将軍』EDUPEDIA 用（平成27年6月13日版）

- ※ 題材はすべてパブリック・ドメインです。
- ※ 意匠：鈴木夏來 肖像画イラスト：長沼武志&鈴木夏來
- ※ 本文をコピーして使うことは構いませんが、商業利用はご遠慮ください。

『早口言葉メドレー』

はやくちことば

①

4/4 拍子
びょうし

生麦 生米 生卵
なまむぎ なまごめ なまたまご
鱈の隣に 鱈場蟹
たら となり たら ばがに

隣の客はよく柿食う客だ
となり きやく かきく きやく

お綾や八百屋にお謝り
あや やおや あやま

フルーツジュース 抽出中
ちゅうしゅつちゅう

バナナの謎はまだ謎なのだ
なぞ なぞ

李も 桃も 桃のうち
すもも もも もも

桃も 李も 桃のうち
もも すもも もも

まずは早口言葉でウォーミングアップ。2行ずつ一息で読むと良いでしょう。
はやくちことば ぎょう ひどいき よ

『早口言葉メドレー』

はやくちことば

②

4/4 拍子
びょうし

蛙 ぴよこぴよこ三ぴよこぴよこ
かえる
合わせてぴよこぴよこ六ぴよこ
あ

蝶蝶 ちよっと採って頂戴
ちようちよ と ちようだい

バスバスガイド バス 瓦斯爆発
がすばくはつ

右耳 2ミリ 右にミニ右耳
みぎみみ みぎ

魔術師が 派出所で 摘出手術
まじゅつし はしゅつじょ てきしゅつしゅじゅつ

向こうの竹垣になぜ竹立て掛けた?
むかこうの たけがき たけ たか

竹立て掛けたかったから竹立て掛けた
たけ たか たけ たか

『早口言葉メドレー』③
はやくちことば

変拍子♪
へんびょうし

赤巻紙 青巻紙 黄巻紙
あかまきがみ あおまきがみ きまきがみ

赤パジャマ 青パジャマ 黄パジャマ
あか びょうふ あお き

笑わば 笑え 妾は 笑われる 謂われはないわ
わら わら わら わら

坊主が 屏風に 上手に 坊主の 絵を 描いた
ぼうず びょうぶ じょうず ぼうず え か

引きにくい釘 抜きにくい釘 引き抜きにくい釘
ひきにくいくぎ ぬきにくいくぎ ひきぬきにくいくぎ

裏庭には 二羽庭には 二羽鶏がいる
うらにわ にわ にわ にわ とり

『早口言葉メドレー』④
はやくちことば

変拍子♪
へんびょうし

東京特許許可局 局長
とうきょうとっきょきょかきょく きょくちょう

今日急遽特許許可却下
きょう きゅうきゅうとっきょきょかきょか きゃつか

第五交響曲に 観客 驚愕
だいごこうきやうきよく かんきゃくきょうがく

新人歌手新春 シャンソン ショー
しんじんかしゅ しんしゅん

浅草寺の 千手観音 専念千日 千遍拜んで
せんそうじ せんじゆかんのん せんねんせんいちせん べんおが

千束町で 煎餅 買って 千食べた
せんぞくまち せんべい か せん た

鹿も 麩鹿も 鹿だが
しか かもしか しか

しかし 確か 葦鹿は 鹿ではない
たし あしか しか

豚が 豚を ぶったので
ぶた ぶた ぶた
ぶたれた 豚が ぶった 豚を ぶった

『五十音』

①

北原 白秋
きたはら はくしゅう



水馬 あめんぼ	赤いな あか	アイウエオ
浮藻に うきも	小蝦も こえび	およいでる
柿の木 かき き	栗の木 くり き	カキクケコ
啄木鳥 きつつき	こつこつ	枯れけやき か
大角豆に ささげ	酢をかけ す	サシスセソ
その魚 うお	浅瀬で あさせ	刺しました さ
立ちまじよ た	喇叭で らっぱ	タチツテト
トテトテ	タツタと	飛び立った と た
蛞蝓 なめくじ	のろのろ	ナニヌネノ
納戸に なんど	ぬめって	なにねばる

あいうえおの口の開きをやや大袈裟なくらい区別しながら読みましょう。
くち ひら おおげさ くべつ

鳩ぽっぽ はと	ほろほろ	ハヒフヘホ
日向の ひなた	お部屋にや へや	笛を吹く ふえ
蝸牛 まいまい	螺旋巻 ねじまき	マミムメモ
梅の実 うめ	落ちて お	見もしまい み
焼栗 やき ぐり	ゆで栗 ぐり	ヤイユエヨ
山田に やまだ	灯のつく ひ	宵の家 よい いえ
雷鳥は らいちょう	寒かろ さむ	ラリルレロ
蓮花が れんげ	咲いたら さ	瑠璃の鳥 るり とり
わいわい	わっしょい	ワ井ウエヲ うい うえ うお
植木屋 うゑきや	井戸換え ゐどが	お祭だ まつり

『五十音』

②

「ゐ」は「うい」、「ゑ」は「うえ」と読みます。
い え

『いろはうた』①

弘法大師 空海？
こうぼうだいし くうかい？



いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゐのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

昔の子どもたちが、ひらがなを覚える際に用いた題材です。
リズムが良く、空海が作ったと言われるほど広まりました。
「ゐ」は「うい」、「ゑ」は「うえ」と読むと、今の子どもも喜びます。

『いろはに金平糖』

いろはに 金平糖
金平糖は 甘い
甘いはお砂糖
お砂糖は 白い
白いは 兎
兎は 跳ねる
跳ねるは 蛙
蛙は 青い
青いはお化け
お化けは 消える
消えるは 電気
電気は 光る
光るは 親父の 禿げ頭

「いろはうた」の冒頭をもじった、リズムカルな替え歌です。
子どもたちも中身をアレンジして音読することがあるでしょう。
ことばの連想や、主語と述語の関係を学ぶのにも適しています。

『付け足し言葉』

驚き 桃の木 山椒の木
おどろ もも き さんしょう き

あたりき 車力よ 車引き
しやりき くるまひ

蟻が 鯛なら 芋虫や 鯨
あり たい いもむし くじら

嘘を 築地の 御門跡
うそ つきじ ごもんぜき

恐れ 入谷の 鬼子母神
おそ いらや きしもじん

おっと 合点 承知之助
がってん しょうちのすけ

その手は 桑名の 焼蛤
て くわな やきはまぐり

何か 用か 九日 十日
なにか よう このか とおか

何が 南京 唐茄子 南瓜
なに なんきん どうなす かぼちゃ

もっとも安定していると言われる4拍子のリズムでできています。

リズムにのって、軽快に読みましょう。

『数かぞえ歌』

一 無花果
いちじく

二 人参
にんじん

三 山椒に
さんしょ

四 椎茸
しいたけ

五 牛蒡に
ごぼう

六 無串子
むくろじゆ

七 七草
ななくさ

八 初茸
はつたけ

九 胡瓜に
きゅうり

十 冬瓜
とうがん

数を唱えるように、リズムカルに読みましょう。

クラスで行うときは、カスタネットなどでリズムを取ると良いでしょう。

『春の七草』

① 芹せり ② 薺なすな

③ 御形ごぎよう ④ 繁縷はこべら

⑤ 仏の座ほとけざ

⑥ 菘すずな ⑦ 蘿蔔すずしろ

これぞ七草ななくさ

リズムカルに読んで覚えましょう。

まず覚えることで、七草そのものへの知識や興味関心へと転移するはずですよ。

『秋の七草』

① 萩の花はぎはな

② 尾花おばな ③ 葛花くずばな

④ 瞿麦の花なでしこはな

⑤ 女郎花おみなえし

また⑥ 藤袴ふじばかま

⑦ 朝貌の花あさがおはな

やまのうえの
山上 憶良おくら



こちらを読んで、真っ先に覚えましょう。

名前を覚えることで、植物への興味の「アンテナ」が伸びることでしょう。

『初恋』①

はつこい

島崎 藤村
しまざき どうそん



まだ あげ初めし 前髪まえがみの

林檎りんごのもとに見えしとき

前にさしたる 花櫛はなぐしの

花はなある 君きみと 思ひおもひけり

やさしく 白しろき 手てを のべて

林檎りんごを われに あたへしは

薄紅うすくれなの 秋あきの 実みに

人ひとこひ 初はつめし はじめなり

こちらも暗唱の定番。リズムカルに読みましょう。
あんしょう ていばん

「初恋①」とあるのは、後半ページにこの続きが載っているからです。
はつこい こうはん

『山のあなた』

やま

カール・ブツセ

上田 敏 訳
うえだ びん やく



山やまの あなたあなたの 空そら 遠とおく

「幸さいわい」住すむと 人ひとの いふ。

噫ああ、われ ひと、 尋とめゆきて

涙なみだ さしぐみ、かへりきぬ。

山やまの あなたあなたになほ 遠とおく

「幸さいわい」住すむと 人ひとの いふ。

暗唱の定番 中の定番。
あんしょう ていばんちゅう ていばん

上田敏の名訳により、本国よりも有名になったほどです。
うえだ びん めいやく ほんこく ゆうめい

『汚れつちまつた悲しみに……』

中原中也



①

汚れつちまつた 悲しみに

今日も 小雪の 降りかかる

汚れつちまつた 悲しみに

今日も 風さえ 吹きすぎる

汚れつちまつた 悲しみは

たとえば 狐の 革褰

汚れつちまつた 悲しみは

小雪の かつて ちぢこまる

促音の「っ」が小気味よいリズムを生みます。

「k」や「ch」の子音を飛ばして読むのも楽しいでしょう。

『サーカス』

中原中也



①

幾時代かが ありまして

茶色い 戦争 ありました

幾時代かが ありまして

冬は 疾風 吹きました

幾時代かが ありまして

今夜 此処での 一と殷盛り

今夜 此処での 一と殷盛り

サーカス小屋は 高い 梁

そこに 一つの ブランコだ

見えるともない ブランコだ……

教科書によく登場する詩です。ここではリズムカルに読みましょう。

「ゆあーんゆあーん」は後半のページで。

『梁塵秘抄』

りょうじん ひしやう

後白河法皇
ごしらかわ ほうおう

へ編

遊ぶをせんとや生れけむ、
あそ せいんとや うま せいれけん

戯れせんとや生れけん、
たわぶ せいんとや おま せいれけん

遊ぶ子供の声きけば、
あそ こども こえ きけば

わが身さへこそ動がるれ
み へこえ 動くるれ

大河ドラマにも登場した有名な歌。
たいが どうじやう ゆうめい うた
子どもたちが音読する声を聞けば、こちらの心も動きます。
こどもたちがおんどくするこえをきけば、こちらのおんこもうごきます。



『太平記』

たいへいき

①

小島法師
こじま ほうし

落花の雪に踏み迷ふ、
らっか ゆき ふまよう

交野の春の桜狩り、
かたの はる さくらが

紅葉の錦を衣て帰る、
もみぢ にしき きかえ

嵐の山の秋の暮。
あらし やま あきくれ

太平記の名場面にして、暗唱の定番。
たいへいき めいばめん あんしょう ていばん
音の響きやリズムを楽しみましょう。
おと ひび たの
隣の2つの題材も、「見た目は難しく、読むとカンタン」の典型です。
となり だいにがい み め おずか よ てんげい



『曾根崎心中』①

近松 門左衛門
ちかまつ もんざ えもん



この世の名残り、夜も名残り。

死にに行く身をたとふれば

あだしが原の道の霜。

一足づゝに消えて行く

夢の夢こそ哀れなれ。

これも暗唱の定番の一つ。
顔を踏んだ、美しい響きを楽しみましょう。

『弁天娘女男白浪』①

（白浪五人男） 河竹 黙阿弥
しらなみごにんおとこ かわたけ もくあみ



知らざあ言つて聞かせやしよう。

浜の真砂と五右衛門が、

歌に残せし盗人の、

種は尽きねえ七里ヶ浜、

その白浪の夜働き、

以前をいやあ江の島で、

年季勤めの児ヶ淵。

百味講で散す蒔錢を、

当てに小皿の一文子、

百が二百と賽銭の、

くすね錢せえだんだんに。

七五調でできた、暗唱の定番。
4拍子のテンポで、リズム良く読みましょう。

『重言』

じゅうげん

いにしへの

昔の武士の侍が

山の中の山中で

馬から落ちて落馬して

女の婦人に笑われて

赤い顔して赤面し

家に帰って帰宅して

仏の前の仏前で

短い刀の短刀で

腹を切って切腹した

「頭痛が痛い」のように、本来、誤ったことばの使い方である「重言」。
それを次々と重ねることで面白おかしく歌にしたものです。

『嫌い箸』

①

小橋好代



涙箸	空箸	立て箸	刺し箸
舐り箸	寄せ箸	横箸	指し箸
渡し箸	移り箸	迷い箸	探り箸

箸の禁じ手「嫌い箸」。
こんなにたくさん？ いえいえ、まだ続きがあります。

『人を動かす』

ひと うご

やまもと 山本 五十六



やってみせ 言って聞かせて させてみせ

い き

ほめてやらねば 人は動かじ

ひと うご

話し合い 耳を傾け 承認し

はな あ みみ かたむ しょうにん

任せてやらねば 人は育たず

まか ひと そだ

やっている 姿を感謝で見守って

すがた かんしや みまも

信頼せねば 人は実らず

しんらい ひと みの

山本五十六の有名な「やってみせ...」。
繰り返し唱え、体に染み込ませたい名文です。

『竹』 ③

たけ

はぎわら 萩原 朔太郎



かたき 地面に竹が生え、

じめん たけ は

地上に するどく竹が生え、

ちじょう たけ は

まつしぐらに 竹が生え、

まつ たけ は

凍れる 節節 りんりんと、

こお ふしぶし

青空のもとに 竹が生え、

あおぞら たけ は

竹、竹、竹が生え。

たけ たけ たけ は

子音を飛ばして、勢いよく読みましょう。
そうすることで、自然と竹の若さや力強さが伝わります。

『浮雲』

うきぐも

二葉亭 四迷



口髭、頬髯、顙の鬚、

くちひげ ほおひげ あごひげ

暴に興起した拿破崙髭に、

やけ おや ナポレオン ひげ

狎の口めいた比斯馬克髭、

ちん くち ビスマルク ひげ

そのほか矮鷄髭、貉髭、

ちやぼ ひげ おじなひげ

ありやなしやの幻の髭と、

まぼろし ひげ

濃くも淡くもいろくに生分る。

こ うす いろ はえわか

4 拍子で相づちをうつように、テンポ良く読みましょう。
拍子が崩れやすい後半も、リズムに乗せてみせましょう。

『寿限無』

じゅげむ

寿限無 寿限無

じゅげむ じゅげむ

五劫の擦り切れ

ごこう すき

海砂利 水魚の

かいじや すいぎよ

水行末 雲来末 風来末

すいぎようまつ うんらいまつ ふうらいまつ

食う寝る処に住む処

く ね ところ す ところ

藪柑子のぶら小路

やぶらこうじ こうじ

パイポパイポパイポの

シューリンガン シューリンガンの

グリーンダイ グリーンダイの

ポンポコピーの ポンポコナーの

長久命の 長助

ちようきゆうめい ちようすけ

勢いそのままに、リズムカルに、すばやく読みましょう。
読み方によっては、途中リズムが変わってきますが、
勢いに任せ読むことが何より大事。

『雨ニモマケズ』

あめ

①

宮沢 賢治
みやざわ けんじ

あめ 雨ニモマケズ

かぜ 風ニモマケズ

ゆき 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
なつ あつ

じょうぶ 丈夫ナカラダヲモチ

よくは 悠ハナク

けっ 決シテ瞋ラズ
いか

イツモシヅカニワラツテキル
い

説明が要らないくらい有名な詩。

やや長いので、小分けにしています。まずは①を覚えましょう。



『落葉』

らくよう

①

ヴェルレーヌ

うえだ 上田 敏 訳
だ びん やく

あき 秋の日のひ

ヴイ ギオロンの

ためいきの

みにしみて

ひたぶるに

うら悲し。
かな

五・五・五で続く詩です。

三連ずつ読むとテンポ良く読めるでしょう。



『落葉松』①

か
ら
まつ

一

北原 白秋
きたはら はくしゅう



からまつの 林を過ぎて

はやし

す

からまつを しみじみと見き。

み

からまつは さびしかりけり。

たびゆくは さびしかりけり。

二

からまつの 林を出でて、

はやし

い

からまつの 林に入りぬ。

はやし

い

からまつの 林に入りて、

はやし

い

また 細く 道は つづけり。

ほそ

みち

五七、五七で続く詩です。
ごしち ごしち つつ し
五七 調 で読むと読みやすいでしょう。
ごしちちよう よ

『道程』

どう
てい

高村 光太郎
たかむら こうたろう



僕の 前に道はない

ぼく

まえ みち

僕の 後ろに道は出来る

ぼく

うしろ みち

でき

ああ、自然よ

しぜん

父よ

ちち

僕を一人立ちにさせた 広大な父よ

ひとりだ

こうだい

ちち

僕から目を離さないで守ることをせよ

ぼく

め はな

まも

常に父の気魄を僕に充たせよ

つね

ちち きはく

ぼく

この 遠い 道程のため

この

とお

どうてい

この 遠い 道程のため

この

とお

どうてい

散文の詩が登場です。
さんぶん し どうじょう
先のページの勢いそのままに。
さき いきお

『亡弟子智泉が爲の達観の文』

弘法大師 空海



哀なる哉、哀なる哉。
 哀なる中にも哀なり。
 悲しき哉、悲しき哉。
 悲の中の悲なり。
 覺の朝には夢虎無く、
 悟の日には幻象莫し
 と云ふと雖も、
 然れども猶、
 夢夜の別れ
 不覺の涙に忍ばれず。

哀しく、しかし美しい名文です。
 悲しくも優しい響きにぐいと引き込まれてしまいます。

『平家物語』①

語り手 琵琶法師



祇園精舎の鐘の聲、
 諸行無常の響きあり。
 娑羅双樹の花の色、
 盛者必衰の理をあらはす。
 おごれる人も久しからず、
 唯春の世の夢のごとし。
 たけき者も遂には滅びぬ、
 偏に風の前の塵に同じ。

暗唱 と言えば、平家物語。
 ここでは、スピーディーに読みましょう。

『元二の安西に使用するを送る』

(陽関三疊)
ようかんさんじよう

王維
おうい



渭城の朝雨 軽塵を潤し
いじよう ちようう けいじん うるお

客舎青青 柳色新たなり
かくしや せいせい りゆうしよく あら

君に勧む 更に尽せよ 一杯の酒
きみ すす さら つく いっぱい さけ

西のかた 陽関を出づれば
にし ようかん

故人 無からん
こじん な

無からん 無からん
な な

故人 無からん
こじん な

西のかた 陽関を出づれば
にし ようかん

故人 無からん
こじん な

別れの詩の定番。原文は漢文ですが、
わか し ていばん げんぶん かんぶん

原文ではなく、日本で人気の書き下し文を載せました。
げんぶん にほん にんき かくだぶん の

日本語「ナカラン」の悲しい響きと、その繰り返しが、何よりの魅力。
にほんご かな ひび くりかえ なに みりよく

『代悲白頭翁』

はくとうを かなしむ おきなにかわる

劉希夷
りゆうきい



古人無復洛城東
こじん また らくじようの ひがしに なく

今人還对落花風
こんじん また たいす らつかのかぜ

年年歳歳花相似
ねんねん さいさい はな あいにたり

歳歳年年人不同
さいさい ねんねん ひと おなじからず

「ネンネンサイサイ」「サイサイネンネン」

念術のような音の魔力に引き込まれること請け合いです。
ねんじゆつ おと まりよく ひご うあ

『歲月不待人』

さいげつはひとをまたず

陶淵明
とうえんめい

得かんを歡えては當まさに作たのしみを樂なすべし

斗としゆ酒もて聚ひりんを比あつむ鄰

盛せい年ねん不かさねて重きたらず來

一いち日じつ難ふたたびあした再なりがたし晨

及とき時およんで當まさに勉べんれいすべし勵

歲さい月げつ不ひとを待またず人

有名な、「歲月は人を待たず」の一節です。

その意味の解釈については、議論になるのでここでは割愛。



『尋胡隱君』

こいんくんをたずぬ

高啓
こうけい

渡みずを水わたり復また渡みずを水わたる

看はなを花み還また看はなを花みる

春しゅん風ふう江こう上じょう路の路みち

不おぼえず覺き到みが君いえに家いたる

「コインクン」という怪しい名と、切れの良い繰り返し。
「トスイフクトスイ・カンカカンカンカ」音読みもオススメ。



『垓下歌』

がいかのうた

項羽
こうう

力拔山兮氣蓋世

ちからは やまをぬき きはよをおおう

時不利兮騅不逝

ときに りあらずして すいゆかざ

騅不逝兮可奈何

すいゆかざるを いかんすべし

虞兮虞兮奈若何

ぐやぐやなんじを いかんせん

国語の教科書に登場する有名教材。
「グヤグヤナンジライカンセン」の美しい響きが心に残ります。



『将東遊壁題』

まさに どうゆう せんとして かべに だいたす

釋月性
しやく げつしょう

男兒立志出郷関

だんじ こころざしを たてて きょうかんを いず

学若無成不復還

がく もしなる なくんば またとは かえらず

埋骨何期墳墓地

ほねを うずむるに なんぞ きせん ふんぼの ち

人間到处有青山

じんかん いたるところ せいざん あり

幕末の志士が愛唱した、気合い十分の漢詩。なお、月性は日本の僧。
「ジンカンイタルトコロ…」は諺にもなっています。



『風林火山』
ふうりんかざん

武田
たけだ

信玄
しんげん

疾如風
はやきごと かぜのごとく

徐如林
しずかなること はやしのごとく

侵掠如火
しんりやくすること ひのごとく

不動如山
うごかざること やまのごとし

武田信玄の軍旗。元は孫子の文。男子は特に好んで読みます。
たけだ しんげん ぐんき もと そんし ぶん だんし とく この よ
「不識庵」と是非、セットで覚えましょう。
ふしきあん ぜ ひ おぼ



『不識庵機山撃凶題』
ふしきあん きざんを うつの ずに だいたす

頼山陽
らいさんよう

鞭声肃肃夜过河
べんせい しゆくしゆく よる かわを わたる

晓见千兵拥大牙
あかつきに みる せんべいの たいがを ようするを

遗恨十年磨一剑
いこん じゅうねん いっけんを みがき

流星光底逸长蛇
りゅうせい こうてい ちようだを いっす

不識庵は上杉謙信のこと。機山は信玄。頼山陽は日本人。
ふしきあん うえすぎけんしん きざん しんげん らいさんよう にほんじん
鋭い音の響きが特徴で、子どもたちの人気が高い題材です。
すんど おと ひび とくらよう こ にんき たか たいざい



『偶成』
ぐうせい

朱熹
しゆき

少年易老學難成
しょうねん おいやすく がく なりがたし

一寸光陰不可輕
いっすんの こういん かるんず べからず

未覺池塘春草夢
いまだ さめず ちとう しゆんそうの ゆめ

階前梧葉已秋聲
かいぜんのごよう すでにしゆうせい



もっとも有名な漢文の一つ。
ゆうめい かんぶん ひと

「g」や「z」の子音を立てると、より格好良く聞こえるでしょう。
しいん た かっこうよ き

『靜夜思』
せいやし

李白
りはく

床前看月光
しゅうぜん げっこうをみる

疑是地上霜
うたごうらくは これ ちじょうの しもかと

舉頭望山月
こうべを あげて さんげつを のぞみ

低頭思故郷
こうべを たれて こきょうを おもう



こちらも有名な暗唱教材。
ゆうめい あんしょうきょうざい

「ウタゴーラクワ」の響きは、意味が分からずも人気。
ひび いふ ぶん にんき

『春曉』

しゅんぎょう

孟浩然
もうこうねん



春眠不覺曉
しゅんみんあかつきを おぼえず

處處聞啼鳥
しよしよ ていちようを きく

夜來風雨聲
やらいふううのこえ

花落知多少
はな おつること しんぬ たししょうぞ

たいへん有名な暗唱教材の一つ。
ゆうめい あんしょうきょうざい ひと
子音を飛ばし、齒切れ良く読みましょう。
しいんと はぎよ

『江南春』

こうなんのはる

杜牧
とぼく



千里鶯啼綠映紅
せんりうぐいすないて みどりくれないにえいず

水村山郭酒旗風
すいそんさんかくしゆきのかぜ

南朝四百八十寺
なんちようしひやくはっしんじ

多少樓台煙雨中
たししょうのろうだいえんうのうち

読むだけで自然とテンポに乗っている自分に気づきます。
よ しぜん の じぶん き
多用される「s」の子音を飛ばせば、より魅力的な読みに。
たよう しいんと みりよくきよ

『春望』

しゅんぼう

とほ 杜甫



渾	白	家	烽	恨	感	城	國
すべて	はくとう	かしよ	ほうか	わかれを	ときに	しろ	くに
欲	頭	書	火	別	かんじて	春	破
しんに	かけば	ばんきんに	さんげつに	うらんで	はなにも	はるにして	やぶれて
たえざらん	さらに	あたる	つらなり	とりに	なみだを	そうもく	さん
と	みじかく			こころを	そそぎ	ふかし	が
勝	更	萬	三	おどるかす	涙	深	あり
ほっす	短	金	月	心			河
簪							在

やや長く、難しそうに見えますが、音の響きは別物。
読みやすく、覚えやすいことに気づくはずですよ。

『春夜』

しゅんや

そ 蘇軾



鞦韆	歌	花	春
しゅうせん	かかん	はな	しゅん
院	管	に	しょう
いん	ろ	せい	しやう
らく	う	いこう	い
よる	ろ	あり	つ
沈	う	つき	き
ちん	だ	に	せん
ちん	い	かげ	きん
	こ	あり	
	え		
	せ		
	せ		
	き		
	き		

音の響きの美しい詩です。
「ヨルチンチン」が男児に特に人気あり。

『万葉集』

まんようしゅう

東の

ひんがし

野に炎の

かぎろい

立つ見えて

たみ

かへり見すれば

えみ

月傾きぬ

つきかたぶ

柿本人麻呂

かぎのものの

ひとまろ



類出の歌を載せました。
ひんしゅつ うた の
百人一首のように読んでみましょう。
ひやくにんいっしゅ

春の野に

はるの

霞たなびき

かすみ

うら悲し

かな

この夕かげに

ゆう

鶯鳴くも

うぐいす

大伴家持

おおともの

やかもち



あをによし

寧楽の京師は

な

咲く花の

さ

薫ふがごとく

におう

今盛りなり

いまさか

小野老

おののおゆ

石ばしる

いわ

垂水の上の

たるみ

さ蕨の

わらび

萌え出づる春に

も

なりにけるかも

志貴皇子

しきのみこ

うらうらに

照れる春日に

て

雲雀あがり

ひばり

情悲しも

こころかな

独りしおもへば

ひと

大伴家持

おおともの やかもち



春過ぎて

はるす

夏来るらし

なつきた

白栲の

しろたえ

衣乾したり

ころもほ

天の香具山

あま

持統天皇

じどう てんのう



あかねさす

紫野行きむらさきのゆ

標野行きしめのゆ

野守は見ずやのもり

君が袖振るきみそでふ

額田王ぬかたのおおきみ



(反歌)
はんか

紫草のむらさぎ

にほへる妹をおえいも

憎くあらばにく

人妻ゆゑにひとづま

われ恋ひめやもこい

天武天皇てんむてんのう



瓜食めばうりは

子ども思ほゆこおもほ

栗食めばくりは

まして俣ばゆしの

何処よりいずく

来たりしものぞき

眼交にまなかい

もとな懸かりてか

安眠し寝さぬやすいな

山上憶良やまのうえのおくら



銀もしろがね

金も玉もくがね たま

何せむになに

勝れる宝まさ

子に及かめやもこ

田児の浦ゆたごうら

うち出でて見ればいみ

真白にぞましろ

不尽の高嶺にふじ

雪は降りけるゆき

山部赤人やまべのあかひと



(反歌)
はんか

山上憶良やまのうえのおくら



『竹取物語』

たけとりものがたり

①

今は昔、
いまむかし

竹取の翁といふものありけり。
たけとりおきな

野山にまじりて、
のやま

竹を取りつゝ、
たけと

萬の事に使ひけり。
よろずことつかい

名をば讚岐造
な さぬきのみやつこ

となむいひける。
ん い

試験にもよく出る「竹取物語」の冒頭。
しけん で たけとりものがたり ぼうとう
「今となつては昔のことだが」という冒頭の訳も有名。
いまむかし ぼうとう やく ゆうめい
繰り返し読んで、②まで丸暗記しておきましょう。
く かえ よ まるあんき
今となつては、難しいことではないはず。
いまむづか

その竹の中に、
たけ なか

本光る竹一筋ありけり。
もと ひか たけ ひとすじ

怪しがりて寄りて見るに、
あや みる

筒の中光りたり。
つつ なか ひか

それを見れば、
み

三寸ばかりなる人、
さんずん ひと

いと美しく居たり。
うつくしゅう い

『竹取物語』

たけとりものがたり

②

『伊勢物語』

い せ も の が た り

昔、男、
むかし おとこ

初冠して奈良の京、
ういこうぶり なら みやこ

春日の里にしるよしして、
かすが さと

狩にいにけり。
かり

その里に、
さと

いとなまめいたる女
おんな

はらから住みけり。
す

この男かいまみてけり。
おとこ

こちらも暗記したい冒頭文です。
あんき ぼうとうぶん
暗唱することで、「けり」の意味や接続も、
あんしょう いみ せつぞく
自然と体に染み込ませることができるでしょう。
しぜん からだ し こ

『土佐日記』

と さ に っ き

紀貫之
きの つらゆき

男もすなる日記といふものを、
おとこ に っ き

女もしてみむとてするなり。
おんな

某年の十二月の
それのとし しわす

二十日余一日の日の
はつか あまり ひとひ ひ

戌の刻に、門出す。
いぬ とき かどで

その由、
よし

いさゝかものに書きつく。
かさ

題名、作者、冒頭文がセットで問われます。
だいめい さくしや ぼうとうぶん
丸暗記しておくとか何とかと役に立つでしょう。
まるあんき なに やく た
視写もおすすめです。
ししゃ



『古今和歌集』

こ きん わ か しゅう

① (仮名序)

か な じょ

紀貫之
きの つらゆき



和歌は、人の心を種として、
やまとうた ひと こころ たね

万の言の葉とぞなれりける。
よろず こと は

世の中にある人、
よ なか ひと

事・業繁きものなれば、
こと わざ しげ

心に思ふ事を、
こころ おも う こと

見るもの聞くものにつけて、
み みる もの きく もの に つ け て、

言ひ出せるなり。
い ひ だ せ る な り。

有名な「仮名序」の冒頭文。
ゆうめい か な じょ ぼうとうぶん
美しい大和言葉が特徴。
うつく やまとことば とくちゆう
歌に秘められた、驚くべき効用の数々が記されています。
うた ひ おどろ けいよう かずかず して

『古今和歌集』

こ きん わ か しゅう

②

花に鳴く鶯、
はな な うぐいす

水に住む蛙の声を聞けば、
みず す かわず こゑ き

生きとし生けるもの、
い い

いづれか歌をよまざりける。
いづれか 歌を よまざりける。

力をも入れずして天地を動かす、
ちから い ち あめつち うご

目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、
め み おにがみ わ あはれ おもわ

男女のなかをもやはらげ、
をとこをんな わ

猛き武士の心をも慰むるは、
たけ もののぶ こころ なぐさ

歌なり。
うた

「ゑ」は「うえ」、
「男女」の「を」は「wo」
と読んでみましょう。

繰り返しを理解する「ラム」②

予測変換

パソコンや携帯電話には、「予測変換」の機能があります。

ある単語や文章を打ち込もうとすると、

入力されるであろう単語や文章を予測し、

先に表示される機能のことです。

予測変換は、これまで繰り返し入力されてきた

単語や文章によって作られています。

そして、より多く繰り返し返される単語や文章が

変換上位に位置するようになっていっています。

この「予測変換」と同じような仕組みが

私たちの脳内にもあるんじゃないかと私は思っています。

脳内に入力された単語や文章は、

無意識のうちに、脳内の辞書ソフトに登録される。

そして、その単語や文章が何度も繰り返し返されるようになると、その頻度の高さに脳が反応し、

「予測変換」の上位に持って来ようとする。

この、すぐに引き出せる状態にある情報のことを

私たちは「記憶した」「覚えた」と言うのではないのでしょうか。

なお、引き出せない状態が「忘れた」です。

「予測変換」で上位に持ってくる「ツ」は、

とにかく繰り返し入力すること。

大事かどうか、どんな意味があるのかといったことは、

脳は判断できません。

ただ、繰り返し返されるかどうかで脳は、

検索上位に持って来ようか（＝覚えようか）判断します。

脳が勘違いする特性を、

私たちがうまく利用したいものです。

『枕草子』

まくらのそうし

清少納言
せいしょうなごん



春はあけぼの。

① 春

はる

やうやう白くなりゆく、

山ぎは少しあかりて、

紫だちたる雲の

細くたなびきたる。

「枕草子」は、わんこそばのように
小分けにすると、比較的ラクに覚えられます。
まずは短い「春」から。
覚えたら、勢いそのまま「夏」へと進みましょう。

夏は夜。

② 夏

なつ

月の頃はさらなり、

やみもなほ、

螢の多く飛びちがひたる。

また、ただ一つ二つなど、

ほのかにうち光りて

行くもをかし。

雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。

夕日のさして、

山の端

いと近うなりたるに、

からすの寝どころへ行くとして、

三つ四つ、二つ三つなど、

飛び急ぐさへあはれなり。

まいて、雁などのつらねたるが、

いと小さく見ゆるは

いとをかし。

日入り果てて、

風の音、虫の音など、

はた言ふべきにあらず。

③

秋

冬はつとめて。

雪の降りたるは

言ふべきにもあらず、

霜のいと白きも、

またさらでもいと寒きに、

火など急ぎおこして、

炭もてわたるも

いとつきづきし。

昼になりて、

ぬるくゆるびもていけば、

火桶の火も

白き灰がちになりてわろし。

④

冬

『源氏物語』

げんじものがたり

紫式部



いづれの御時にか、

おおんとき

女御、更衣 あまた

にようご

こうい

さぶらひたまひける なかに、

いとやむごとなき 際にはあらぬが、

ん

きわ

すぐれて時めきたまふありけり。

とぎ

も

超・有名な源氏物語の冒頭。

意味の理解は後回し。

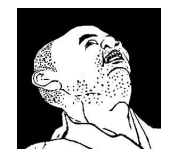
とにかく声に出して読み、

理屈抜きで覚えましょう。

『方丈記』

ほうじょうき

鴨長明



ゆく河の流れは絶えずして、

かわ

なが

た

しかももとの水にあらず。

みず

よどみに浮かぶうたかたは、

う

かつ消えかつ結びて、

き

むす

久しくとどまりたるためしなし。

ひさ

これも暗記必須の題材。

題名・作者・冒頭文を

セットで覚えましょう。

意味解釈は、覚えてから。

『徒然草』

つれづれぐさ

つれづれなるままに、

よしだ 吉田

けんこう 兼好



ひぐ 日暮らし、

すずり 硯に向かひて、

こころ 心にうつりゆく

よしなしごとを、

そこはかとなく

か 書きつくれば、

あやしうこそ

しゆう

ものぐるほしけれ。

お

「日暮らし」の読み方は「ひくらし」「ひぐらし」両方あります。

蟬の「ヒグラシ」と誤解する恐れがあるから、

「ひぐらし」は誤りだ という説得力のない説も。

題名・作者・冒頭文はセットで覚えましょう。

『奥の細道』

おく ほそみち

まつお 松尾 芭蕉



つきひ 月日は百代の過客にして、

ゆき 行かふ年も又旅人也。

ふね 舟の上には生涯をうかべ、

うま 馬の口とらえて

おい 老をおかふる物は、

ひび 日々旅にして

たび 旅を栖とす。

こじん 古人も多く

たび 旅に死せるあり。

たいへん有名な冒頭文です。

芭蕉の俳句は別途、「俳句カルタ・ルビン」で覚えましょう。

『吾輩は猫である』

わがはい ねこ

夏目漱石
なつめ そうせき

吾輩は猫である。

わがはい ねこ

名前はまだない。

なまえ

どこで生まれたか

う

とんと見当がつかぬ。

けんとう

何でもうす暗い

なん

ぐら

じめじめした所で

ところ

ニャーニャー

泣いていた事だけは

な

こと

記憶している。

きおく

日本一有名な冒頭文。
にほんいちゆうめい ぼうとうぶん
繰り返し読み、丸暗記しましょう。
く かい よ まるあんき
視写もおすすめです。
ししや

「我」輩ではなく「吾」輩。
わが はい わが はい



『坊っちゃん』

ぼ

夏目漱石
なつめ そうせき

親譲りの無鉄砲で

おやゆず

むてっぽう

小供の時から

こども

とき

損ばかりしている。

そん

小学校に居る時分

しょうがっこう

お

じぶん

学校の二階から飛び降りて

がっこう

にかい

と

お

一週間ほど

いっしゅうかん

腰を抜かした事がある。

こし

ぬ

こと

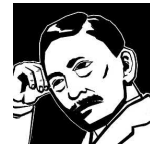
こちらの冒頭も、たいへん有名。
ぼうとう ゆうめい
暗記しましょう。
あんき
視写もおすすめ。
ししや
「子」供ではなく「小」供。
こども こども



『草枕』

くさまくら

夏目漱石
なつめ そうせき



山路を登りながら、
やまみちのぼ

こう考えた。
かんが

智に働けば角が立つ。
ち はたらかど

情に棹させば流される。
じょう さおなが

意地を通せば窮屈だ。
いじとお きゆうくつ

兎角に人の世は住みにくい。
とかくひとよ す

この冒頭文も暗記必須。
ぼうとうぶん あんきひつず
「棹させば」は意味を問われるので、
さお いみ と
辞書を引いて調べましょう。
じしょ ひしら
漱石の文は有名だけに、音読だけじゃダメ？
そうせき ぶん いうめい おんどく

『こころ』

夏目漱石
なつめ そうせき



私はその人を常に
わたし ひと つね

先生と呼んでいた。
せんせい よ

だからここでも

ただ先生と書くだけで
ただ せんせい か

本名は打ち明けない。
ほんみやう うちあ

これは世間をはばかり
これ せけん

遠慮というよりも、
えんりよ

そのほうが私にとって
そのほう わたし

自然だからである。
しぜん

「こころ」の美しい冒頭文です。
うつく ぼうとうぶん
声に出すことで、漱石の文の美しさを体感しましょう。
こゑ だ そうせき ぶん うつく たいかん

『舞姫』

まいひめ

もり 森 鷗外
もり おうがい



石炭をば 早や 積み果てつ。
せきたん は つかい

中等室の 卓の ほとりは
ちゅうじゅうどうしつ つくえ

いと 静にて、
しずか

熾熱燈の 光の
しねつとう ひかり

晴れがましきも 徒なり。
は いたづら

今宵は 夜毎に ころに 集ひ来る
こよい よごと こ つどいく

骨牌仲間も 「ホテル」に 宿りて、
カルタ なかま やど

舟に 残れるは
ふね のこ

余一人のみなれば。
よひとり

森鷗外「舞姫」の冒頭。
もりおうがい まいひめ ぼうとう

題名・作者・冒頭文が結びつきにくいので、試験によく出ます。
だいめい さくしゃ ぼうとうぶん わす しけん で

『高瀬舟』

たかせぶね

もり 森 鷗外
もり おうがい



高瀬舟は 京都の 高瀬川を
たかせぶね きょうと たかせがわ

上下する 小舟である。
じょうげ こぶね

徳川時代に 京都の 罪人が
とくがわ じだい きょうと ざいにん

遠島を 申し 渡されると、
えんとう もう わた

本人の 親類が 牢屋敷へ 呼び出されて、
ほんにん しんるい ろうやしき よ だ

そこで 暇乞をする ことを 許された。
いこまがい ゆる

「高瀬舟」の冒頭。
たかせぶね ぼうとう

作者は誰か、と問う問題がよく出ます。
さくしゃ だれ と もんだい で

『たけくらべ』

樋口 一葉
ひぐち いちよう



廻れば 大門の

見返り柳いと長けれど、

お齒ぐる 溝に 燈火 うつる

三階の 騒ぎも 手に取る如く、

明けくれなしの 車の 行来に

はかり 知られぬ

全盛を うらなひて……

樋口一葉の有名な「たけくらべ」冒頭。

句点(。)がなく、どこまでも読点(、)で続くのが特徴です。

『五重塔』

幸田 露伴
こうた ろはん



材を 斫る 斧の 音、

板 削る 鉋の 音、

孔を 鑿る やら 釘 打つ やら

丁々 かちかち 響 忙しく、

木片は 飛んで 疾風に

木の葉の 翻へるが 如く、

鋸屑 舞って 晴天に 雪の降る

感応寺 境内 普請場の

景況 賑やかに……

刃物の金属音を「k」や「t」の子音で、

風吹き木片の舞う様子を促音「っ」で表現しているようです。

音読でそれを体感しましょう。

『蜘蛛の糸』

芥川 龍之介
あくたがわ りゅうのすけ



或日の事でございます。
あるひ こと

御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、
おしやかさま ごくらく はすいけ

独りでぶらぶら
ひと

御歩きになつていらつしやいました。
おある

池の中に咲いている蓮の花は、
いけ なか さ はす はな

みんな玉のようにまっ白で、
たま しる

そのまん中にある金色の蕊からは、
なか きんいろ すい

何とも云えない好い匂が、
なん い よ におい

絶間なくあたりへ溢れて居ります。
たえま あふ お

極楽は丁度朝なのでございましょう。
ごくらく ちやうど あさ

丁寧語や敬語が溢れております。

声に出し覚えることで、敬語の勉強にもなりそうです。

『羅生門』

芥川 龍之介
あくたがわ りゅうのすけ



ある日の暮方の事である。
あるひ くれかた こと

一人の下人が、
ひとり げにん

羅生門の下で
らしやうもん した

雨やみを待っていた。
あま ま

広い門の下には、
ひろ もん した

この男のほかに誰もいない。
おとこ だれ

ただ、所々丹塗の剥げた、
ところどころ にぬり は

大きな丸柱に、
おお まるばしら

蟋蟀が一匹とまっている。
せりぎりす いっぴき

一方、こちらは常体(である体)。

一文が短いので、心地良いテンポが生まれます。

また、語尾を変えているので、読み手を飽きさせません。

『銀河鉄道の夜』

ぎんががてつどう

よる
みやざわ けんじ
宮沢 賢治



「ではみなさんは、

そういうふうには川だと云われたり、

かわ

乳の流れたあとだと云われたりしていた

ちちなが

このぼんやりと白いものが

しろ

ほんとうは何かご承知ですか。」

なに

しやうち

先生は、黒板に吊るした

せんせい

こくばん

大きな黒い星座の図の、

おお

くろ

せいざ

ず

上から下へ白くけぶった

うえ

した

しろ

銀河帯のようなところを指しながら、

ぎんがたい

のう

ところを

さ

みんなに問いをかけました。

と

会話文、それも疑問文によって始まる冒頭。
これを暗記するだけでも、作文の勉強になります。

『よだかの星』

ほし

みやざわ けんじ
宮沢 賢治



よだかは、実にみにくい鳥です。

じつ

とり

顔は、ところどころ、

かお

味噌をつけたようにまだらで、

みそ

くちばしは、ひらたくて、

耳までさけています。

みみ

足は、まるでよばよばで、

あし

一間とも歩けません。

いっけん

ある

ほかの鳥は、もう、

ほか

よだかの顔を見ただけでも、

よだか

かお

み

いやになってしまうという工合でした。

ぐあい

ぐいと引き込まれる、ショッキングな冒頭文です。
気になる続きは、実際に手にとって読んでみましょう。

『走れメロス』

はし

太宰治
だざい おさむ



メロスは激怒した。

げきど

必ず、かの邪智暴虐の王を

かなら

じゃ ちほうぎやく

おう

除かなければならぬと決意した。

のぞ

けつい

メロスには政治がわからぬ。

せいじ

メロスは、村の牧人である。

むら

ぼくじん

笛を吹き、

ふえ

ふ

羊と遊んで暮して来た。

ひつじ

あそ

くら

きた

けれども邪悪に対しては、

じゃあく

たい

人一倍に敏感であった。

ひといちばい

びんかん

政治がわからぬメロスも、言葉の意味が分からぬ読者も、
言わんとする意味はなんとなくわかり、強烈に伝わる。
そんな「ヤバイ」冒頭です。

『人間失格』

にんげんしっかく

太宰治
だざい おさむ



恥の多い生涯を送って来ました。

はじ

おほ

しょうがい

おく

き

自分には、人間の生活というものが、

じぶん

にんげん

せいかつ

見当つかないのです。

けんとう

自分は東北の田舎に生まれましたので、

じぶん

とうほく

いなか

うま

汽車をはじめて見たのは、

きしゃ

み

よほど大きくなってからでした。

おお

強烈な最初の一文。
さまざまな場面で目にし、耳にします。

『名人伝』

めいじんてん

ある日 ふと気が付くと、

中島 敦
なかじま あつし



窓の風が馬のような大きさに見えていた。

占めたど、紀昌は膝を打ち、表へ出る。

彼は我が目を疑った。

人は高塔であった。

馬は山であった。

豚は丘のごとく、

鶏は城楼と見える。

雀躍して家にとつて返した紀昌は、

再び窓際の風に立向い、

燕角の弧に朔蓬の簪をつがえて

これを射れば、

矢は見事に風の心の臓を貫いて、

しかも風を繋いだ毛さえ断れぬ。

この名文を暗唱すれば、音読の名人と思われるでしょう。

見た目は難解ですが、音読とは無関係。

実は、暗唱するのは難しいことではありません。

『山月記』

さんげつき

中島 敦
なかじま あつし



隴西の李徴は博学才穎、

天宝の末年、

若くして名を虎榜に連ね、

ついで江南尉に補せられたが、

性、狷介、自ら恃むところ頗る厚く、

賤吏に甘んずるを潔しとしなかつた。

いくばくもなく官を退いた後は、

故山、號略に帰臥し、

人と交を絶つて、ひたすら詩作に耽つた。

下吏となつて長く膝を

俗悪な大官の前に屈するよりは、

詩家としての名を

死後百年に遺そうとしたのである。

切れ味鋭い音の響きが魅力的。

漢文を読んでいるような錯覚に陥ります。

『君死にたまふことなかれ』

旅順口包圍軍の中に在る弟を歎き
りよじゅんこうほういぐん なか おとうと なげ

与謝野 晶子
よ さいの あきこ

あゝ おとうとよ、君を泣く。

君死にたまふことなかれ。

末に生まれし君なれば

親のなさはまさりしも、

親は刃をにぎらせて

人を殺せとをしへしや、

人を殺して死ねよとて

二十四までをそだてしや。

「k」や「s」の子音を飛ばして読みましょう。

その音の響きに、強い思いを感じられるからです。



繰り返しを理解する「コラム③」

CMの仕組み

15秒の同じCMが30秒間で2回繰り返される場合があります。

「同じCMを続けて2回も流すのは非効率で、もったいない。」

15秒ずつ、内容や言い回しを変え、2種類流せばいいのでは

と、視聴者であるあなたは思うかもしれませんが。

しかし、異なるCMに興味があるのは、あなたの意識だけ。

反対に無意識は、繰り返されることにのみ、興味を示します。

放映者は、繰り返しの効果を熟知しているので、

意図して同じものを繰り返し流しているのです。

同じ番組内で、同じ時間帯に流せば、

同じ人が繰り返し見たり聞いたりする可能性がより高まります。

そうやってCMを繰り返し流すことで、商品名や社名は、

人の記憶に刷り込まれていきます。

「この商品、たしかCMでやってたね。なぜか覚えてる。」

きっと、良い商品に違いない。よし、買っておこう」

繰り返されたCMだからこそ、効果があるのです。

『平家物語』

①

へい け もの が たり

語り手

琵琶

法師



祇園精舎の鐘の声、
ぎおんしょうじや かね こえ

諸行無常の響きあり。
しよぎやうむじやう ひび

娑羅双樹の花の色、
しやらそうじゆ はないろ

盛者必衰の理をあらはす。
じようしやひっすい ことわり わ

おごれる人も久しからず、
ひと ひさ

唯春の世の夢のごとし。
ただ はる よ ゆめ

たけき者も遂には滅びぬ、
もの つい ほろ

偏に風の前の塵に同じ。
ひとえ かぜ まえ ちり おな

遠く異朝をとぶらへば、
とお いちよう え

秦の趙高、漢の王莽、
しん ちようこう かん おうもう

梁の周伊、唐の禄山、
りやう しゆい どう ろくさん

是等は皆、
これら みな

旧主先皇の政にもしたがはず、
きゆうしゆせんこう まつりごと わ

樂みをきはめ、
たのし わ

諫をも思ひいれず、
いさめ おもい

天下の乱れお事をさとらずして、
てんか みだ ん こと

民間の愁ふる所を知らざししかば、
みんかん うれう ところ し

久しからずして、
ひさ

亡じにし者ども也。
ぼう もの なり

『平家物語』

②

へい け もの が たり

「平家物語」の続き。

①は既出なので、色を薄くし、あえて負荷を高めています。

以降の作品も同様です。

『平家物語』③
へいけものがたり

近く本朝をうかがふに、
ちか ほんちよう

承平の将門、天慶の純友、
しょうへい まさかど てんぎよう すみとも

康和の義親、平治の信頼、
こうわ ぎしん へいじ のぶより

此等はおごれる心もたけき事も、
これら おごれるこころ たけきこと

皆とりぐにこそありしかども、
みな とりぐにこそ ありしかども、

『平家物語』④
へいけものがたり

まぢかくは六波羅の入道
まぢかくは ろくはら にゆうどう

前太政大臣
さきの だいにじやうだいじん

平朝臣清盛公
たいらのあつそん きよもりこう

と申しし人の有様、
もう ひと ありさま

伝へ承るこそ、
つたえうけたまわ

心も詞も及ばれね。
こころもことば およ

①②③④と、小分けにすることで無理なく覚えられます。
こわ おり おぼ

①を暗唱できれば、②③④もその勢いで覚えられるはずです。
あんしょう いきお おぼ

『太平記』①

たいへいき

小島法師
こじま ほうし



落花の雪に踏み迷ふ、
らっか ゆき ふ まよ

交野の春の桜狩り、
かたの はる さくらが

紅葉の錦を衣て帰る、
もみじ にしき き かえ

嵐の山の秋の暮、
あらし やま あき くれ

一夜を明かす程だにも、
ひとよ あ ほど

旅宿となればもの憂きに、
たびね う

恩愛の契り浅からぬ、
おんあい ちぎ あざ

『太平記』②

たいへいき

わが故郷の妻子をば、
ふるさと つまこ

行末も知らず思ひ置き、
ゆくえ し おもいお

年久しくも住み馴れし、
とし ひさ す な

九重の帝都をば、
ここのえい ていと

今を限りと顧みて、
いま かぎ かえり

思はぬ旅に出で給ふ、
おもわ たび い たもう

心の中ぞ哀れなる。
こころ うち あわ

『太平記』有名な同行部分の続き。
たいへいき ゆうめい どうこう ぶぶん つづ

最後の行「心の中ぞ哀れなる」を強調するために、様々な修飾が読点で続きます。
さいご ぎょう こころ うち あわ きょうちゆう さまざま しゅうしよく どうてん つづ

音読すると、クライマックスまで徐々に盛り上げ読んでいる自分に、気づくはずです。
おんどく じょじょ も あ よ じぶん き

『曾根崎心中』①

そ ね ざ き し ん ち ゅ う

近松 門左衛門
ちかまつ もんざ えもん



この世の名残り、夜も名残り。
死しにに行ゆく身みををたたととふふれれば

あだしが原の道の霜。
はら みち しも

一足づつに消えて行く
ひとあし つつ き ゆく

夢の夢こそ哀れなれ。
ゆめ ゆめ あわ

あれ数ふれば暁の、
かぞう あかつき

七つの時が六つ鳴りて、
なな とき む な

残る一つが今生の、
のこ ひと こんじょう

鐘の響きの聞き納め。
かね ひび き おさ

寂滅じやくめつ為ため楽らくと響ひびくなりなり。
ひび

『曾根崎心中』②

そ ね ざ き し ん ち ゅ う

鐘かねばかりかは、草くさも木きも

空そらも名残りなごと見上みあぐれば、

雲くも心こころなき水みずの面おも、

北斗ほくとは冴さえて影かげうつる

星ほしの妹背いもせの天あまの河がわ。

梅田うめだの橋はしを鵲かさねの

橋はしと契ちぎりていつまでも、

われとそなたは女め夫おと星ぼし。

必ずかなら添そふとうすがりよ寄り、

二人ふたりがなかに降ふる涙なみだ、

川かわの水み嵩かさも勝まさるべし。

「曾根崎心中」の続き。

美しい七五調しちごちようが続つづきます。

声こゑに出だし、豊ゆたかな音おとの響ひびきを味あじわいましょう。

『弁天娘女男白浪』①

べんてんむすめ おのしらなみ

河竹 黙阿弥
かわたけ もくあみ

知らざあ言つて 聞かせやしよう。

浜の真砂と 五右衛門が、

歌に残せし 盗人の、

種は尽きねえ 七里ヶ浜、

その白浪の 夜働き、

以前をいやあ 江の島で、

年季勤めの 児ヶ淵。

百味講で 散す 時銭を、

当てに 小皿の 一文子、

百が 二百と 賽銭の、

くすね銭せえ だんだんに。



『弁天娘女男白浪』②

べんてんむすめ おのしらなみ

悪事はのぼる 上の宮、

岩本院で 講中の

枕探しも 度重り、

お手長講の 札付きに、

とうく 島を 追いだされ、

それから 若衆の 美人局、

こゝや 彼処の 寺島で、

小耳に 聞いた 音羽屋の

似ぬ 声色で 小ゆすりかたり、

名さえ 由縁の

弁天小僧 菊之助たア、

おれが ことだ。

「弁天娘女男白浪」の続き。

リズムカルな一斉音読はもちろん、ソロ音読にも向いています。

意味理解は後回し、勢いが第一です。

『南京玉簾』

なんきんたますだれ

①

アさて アさて

アさて さて さて さて

さては 南京玉簾

なんきんたますだれ

チョイと 伸ばせば チョイと 伸ばせば

浦島太郎さんの 魚釣り竿に

うらしまたろう

うおつざお

チョイと 似たり

に

浦島太郎さんの 魚釣り竿が

うらしまたろう

うおつざお

お目にとまれば お慰み

め

なぐさ

お目にとまれば 元へと返す

め

もと

かえ

元へと返す

もと

かえ

手拍子などと一緒に読むと盛り上がります。
てびょうし いっしょ よ も あ

もちろん、玉簾があれば完璧。
もちろん、たますだれ かんぺき

『南京玉簾』

なんきんたますだれ

②

アさて アさて

アさて さて さて さて

さては 南京玉簾

なんきんたますだれ

ちよいと返せば ちよいと返せば

かえ

かえ

日本三景は 天の橋立

にほんさんけい

あま

はしだて

浮かぶ 白帆に さも 似たり

う

しらほ

に

浮かぶ 白帆が

う

しらほ

お目にとまれば 元へと返す

め

もと

かえ

元へと返す

もと

かえ

『金色夜叉』

こんじきやしや

①

尾崎 紅葉
おざき こうよう



ああ
みやさん

こ
かうして二人が
ふたり
いっしょ
い
居るのも

こんや
今夜かぎりだ。

まえ
お前が僕の介抱を
ぼく
か
いほう
してくれるのも

こんや
今夜かぎり、

ぼく
僕がお前に物を
まえ
もの
い
言ふのも

こんや
今夜かぎりだよ。

『金色夜叉』 ②

こんじきやしや

いちがつ
一月の十七日、
じゅうしちにち

みやさん、善く覚えてお置き。
みや
よ
おほ
お

らいねん
来年の今月今夜は、
こんげつ
こんや

かんいち
貫一は何処でこの月を見るのだか！
どこ
つき
み

さいらいねん
再来年の今月今夜……
こんげつ
こんや

じゅうねんのち
十年後の今月今夜……
こんげつ
こんや

いっしょう
一生を通して僕は
いっしょう
とお
ぼく

こんげつ
今月今夜を忘れん、
こんや
わす

わす
忘れるものか、

し
死んでも僕は忘れんよ！
ぼく
わす

『金色夜叉』③
こんじきやしや

可いいか、宮みやさん、

一いち月の十七日じゅうしちにちだ。

来らい年の今こん月げつ 今こん夜やになつたらば、

僕ぼくの涙なみだで必かならず月つきは

曇くもらして見みせるから、

月つきが……月つきが……月つきが……

曇くもつたらば、宮みやさん、

貫かん一いちは何どこ処こかでお前まえを恨うらんで、

今こん夜やのやうに

泣ないてゐると思おもつてくれ。

「金色夜叉」の名場面。「女々しい」は男のためにあることば。

クラスの一斉音読よりも、各々が自由な読み方で読むのに適しています。

『日本海海戦電文』
にほんかいかいせんでんぶん

秋山真之
あきやま さねゆき



敵艦見ユトノ警報ニ接シ
てきかん み けいほう せつ

連合艦隊ハタダチニ出動
れんごうかんたい しゅつどう

コレヲ撃滅セントス
げきめつ

本日天気晴朗ナレドモ
ほんじつ てんき せいろう

波高シ
なみ たか

世界一有名な電文と言われています。

緊張感がみなぎる名文です。

『薔薇二曲』

いち

薔薇ノ木ニ

薔薇ノ花咲ク。

ナニゴトノ不思議ナケレド。

薔薇ノ花。

ナニゴトノ不思議ナケレド。

照り極マレバ木ヨリコボルル。

光りコボルル。

北原白秋
きたはら はくしゅう



「薔薇」と言えば、この詩。

「薔薇」の文字が大きな花びら、「ノ」が細い茎のようです。

『一握の砂』

いちあく

すな

我を愛する歌
われ あい うた

石川啄木
いしかわ たくぼく



東海のとうかい小島のこじま磯のいそ白砂にしらすな

われ泣きぬれて蟹とたはむる
な かに わ

頬ほにつたふなみだのごはず
う

一握いちあくの砂すなを示しめしし人ひとを忘わすれず

大海だいかいにおかひて一人ひとり七八日ななようか

泣なきなむとすと家いえを出いでにき

たいへん有名な、「一握の砂」冒頭。是非覚えましょう。

『初恋』①

島崎 藤村
しまざき どうそん



まだ あげ初めし 前髪の
そ まえがみ

林檎の もとに 見えしとき
りんご み

前に さしたる 花櫛の
まえ はなぐし

花ある 君と 思ひけり
はな きみ おもひ

やさしく 白き 手を のべて
しろ て

林檎を われに あたへしは
りんご え

薄紅の 秋の 実に
うすくれなゐ あき み

人こひ初めし はじめなり
ひと いそ

『初恋』②

わが こころなき ためいきの

その 髪の毛に かゝるとき
かみ け か

たのしき 恋の 盃を
こい さかずき

君が 情に 酌みしかな
きみ なさけ

林檎畑の 樹の 下に
りんごばたけ こ した

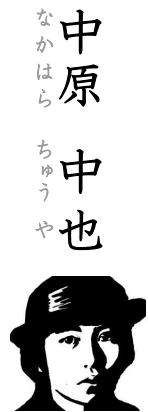
おのづからなる 細道は
おのづか ず ほそみち

誰が 踏みそめし かたみぞと
た ふ

問ひたまふこそ こひしけれ
と い も う い

「初恋」の続き。リズムカルに、すばやく読むことに慣れたら、
情感込めて読む「朗読」に挑戦するのも良いでしょう。

『汚れつちまつた悲しみに……』①



中原 中也
なかはら ちゅうや

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

今日も 小雪の 降りかかる
きょう こゆき ふ

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

今日も 風さえ 吹きすぎる
きょう かぜ ふ

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

たとえば 狐の 革裘
たとえば きつね かわごろうも

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

小雪の かつて ちぢこまる
こゆき

『汚れつちまつた悲しみに……』②

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

なに のぞむなく ねがうなく

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

懈怠の うちに 死を 夢む
けだ い し ゆめ

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

いたいたしくも 怖気づき
おび け

汚れつちまつた 悲しみに
よご かな

なす ところも なく 日は 暮れる
ひ

「汚れつちまつた悲しみに……」の続き。

音読すると、「k」の子音や促音「ツ」が執拗に飛ぶことが分かります。

詩は解釈することが目的とするならば、声に出すことで解釈につながると思います。

『サーカス』①

中原 中也
なかはら ちゅうや



幾時代かが ありまして
いくじだい
茶色い 戦争 ありました
ちやいろ せんそう

幾時代かが ありまして
いくじだい
冬は 疾風 吹きました
ふゆ しつぷう ふう

幾時代かが ありまして
いくじだい
今夜 此処での 一と 殷盛り
こんや ここ ひと さかさか
今夜 此処での 一と 殷盛り
こんや ここ ひと さかさか

サーカス小屋は 高い 梁
ごや たか はり
そこに 一つの ブランコだ
ひと
見るとも ない ブランコだ
み

教科書に載った「ゆあーんゆよーん」は、おばけの語りのように感じました。
さようかしよ の かた かん
落下傘「奴」とは、憎き落下傘型の爆弾のことでしょうか。
らっかさん のに にく らっかさんかた ばくだん
様々な解釈 ができる、文字通りサーカスのような詩です。
さまざま かいしゃく し

頭 倒さに 手を 垂れて 『サーカス』②
あたま さか て た

汚れ木綿の 屋蓋の もと
よご もめん やね

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

それの 近くの 白い 灯が
ちか しろ ひ

安値い リボンと 息を 吐き
やす いき は

観客様は みな 鯛
かんきやくさま いわし

咽喉が 鳴ります 牡蠣殻と
のんど な かきがら

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

屋外は 真ツ闇 闇の 闇
やがい ま くら くら くら

夜は 劫々と 更けまする
よ こうこう ふ

落下傘奴の ノスタルヂアと
らっか がさめ

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

『竹』
たけ ①

萩原 朔太郎
はぎわら さくたろう



ますぐなるもの地面に生え、
じめん は

するとき青きもの地面に生え、
あお じめん は

凍れる冬をつらぬきて、
こお ふゆ

そのみどり葉光る朝の空路に、
は ひか あさ そらじ

なみだたれ、

なみだをたれ、

いまはや懺悔をはれる肩の上より、
ざんげ かた うえ

けぶれる竹の根はひろがり、
たけ ね

するとき青きもの地面に生え。
あお じめん は

『竹』
たけ ②

光る地面に竹が生え、
ひか じめん たけ は

青竹が生え、
あおたけ は

地下には竹の根が生え、
ちか たけ ね は

根がしだいにほそらみ、
ね

根の先より纖毛が生え、
ね さき せんもう は

かすかにけぶる纖毛が生え、
せんもう は

かすかにふるえ。

『竹』③

かたき じめん 地面に竹が生え、

地上ちじょうに たけ するどく竹が生え、

まつしぐらに たけ 竹が生え、

凍れる ふしぶし 節節りんりんと、

青空あおぞらの たけ もとに竹が生え、

竹、竹、竹が生え。

『竹』④

みよ つみ すべての罪はしるされたり、

されど われ すべては我にあらざりき、

まことに あらわ われに現はれしは、

かげなき あお 青き ほのお 炎の げんえい 幻影のみ、

雪ゆきの上うえに き 消えさる あいしやう 哀傷の ゆうれい 幽霊のみ、

ああ ひ かかる日の ざんげ せつなる 懺悔をも なに 何かせむ、

すべては あお 青き お ほのほの げんえい 幻影のみ。

音読教材として有名な「竹」は②と③。

実は前後があります。

①と④を合わせて読むと、

そのイメージも一変するのではないのでしょうか。

『雨ニモマケズ』

あめ

①

宮沢 賢治
みやざわ けんじ



あめ 雨ニモマケズ

かぜ 風ニモマケズ

ゆき 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
なつ あつ

じょうぶ 丈夫ナカラダヲモチ

よくは 慾ハナク

けっ 決シテ瞋ラズ
いか

イツモシヅカニワラツテキル
い

暗唱の定番、「雨ニモマケズ」の続き。
あんしょう ていばん あめ つづ

①は前述なので、グレーで表記しています。
ぜんじゆつ ひょうき

『雨ニモマケズ』

あめ

②

いちにち 一日ニ玄米四合ト
げんまい よんごう

みそ 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
すこ やさい

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ
い

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

『雨ニモマケズ』③
あめ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
の はら まつ はやし かげ

小サナ萱ブキノ小屋ニ中テ
ちい かや こや い

東ニ病氣ノコドモアレバ
ひがし びょうき

行ッテ看病シテヤリ
い かんびょう

西ニツカレタ母アレバ
にし はは

行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
い いね たば おい

南ニ死ニサウナ人アレバ
みなみ し そ ひと

行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
い わ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
きた か

ツマラナイカラヤメロトイヒ
い

『雨ニモマケズ』④
あめ

ヒドリノトキハナミダヲナガシ
は

サムサノナツハオロオロアルキ
は

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニ
そ

ワタシハナリタイ
は

ここでは原文に近いカタカナ表記としました。

「ヒドリ」も原文のままとしています。

カタカナそのままに、やや棒読みで読むのもよし。

「中」や「クワ」をそのまま読んでも迫力がで

『小景異情』

しょうけい いじょう

(その二)

室生 犀星
むろ う さいせい



ふるさととは遠きにありて思ふもの

そして悲しくうたふもの

よしや

うらぶれて異土の乞食となるとても

帰るところにあるまじや

ひとり都のゆふぐれに

ふるさとおもひ涙ぐむ

そのころもて

遠きみやこにかへらばや

遠きみやこにかへらばや

ふるさとを思う、有名な詩。
「悲しくうたふ」とあります。

『旅上』

りょじょう

萩原 朔太郎
はぎわら さくたろう



ふらんすへ行きたしと思へども

ふらんすはあまりにも遠し

せめては新しき背広を着て

きままなる旅にいでてみる。

汽車が山道をゆくとき

みづいろの窓によりかかりて

われひとりうれしきことをおもはむ

五月の朝のしのめ

うら若草のもえいづる心まかせに。

お金がないとき、時間がないとき。
この詩を読めば元気が出ます。

『落葉』
らくよう
①

ヴェルレーヌ

上田敏
うえだ びん
訳
やく



秋の日の
あき ひ
ヴィオロンの
ヴイ
ためいきの
身にしみて
み
ひたぶるに
うら悲し。
かな

鐘のおとに
かね
胸ふたぎ
むね
色かへて
いろ
涙ぐむ
なみだ
過ぎし日の
す
おもひでや。
い

『落葉』
らくよう
②

げにわれは
うらぶれて
こゝかしこ
さだめなく
とび散らふ
ち
落ち葉かな。
お ば

『落葉』
らくよう
③

「落葉」の続き。悲しい5音が続きます。

黙読による意味解釈よりもまず、音の響きを味わいましょう。

その響きこそ、ヴィオロンのためいきであり、鐘の音だと思ふのです。

『落葉松』①

か
ら
まつ

一

北原 白秋
きたはら はくしゅう



からまつの 林を 過ぎて

はやし す

からまつを しみじみと 見き。

み

からまつは さびしかりけり。

たびゆくは さびしかりけり。

二

からまつの 林を 出でて、

はやし い

からまつの 林に 入りぬ。

はやし い

からまつの 林に 入りて、

はやし い

また 細く 道は つづけり。

ほそ みち



『落葉松』②

か
ら
まつ

三

からまつの 林の 奥も

はやし おく

わが通る 道は ありけり。

とお みち

霧雨の かかる 道なり。

きりさめ

山風の かよふ 道なり。

やまかせ

四

からまつの 林の 道は、

はやし みち

われのみか、 ひともしも かよひぬ。

い

ほそぼそと 通ふ 道なり。

かよう みち

さびさびと いそぐ 道なり。

みち



『落葉松』③
か ら ま つ

五

からまつの 林を 過ぎて、
 ゆゑしらず 歩み ひそめつ。
 からまつは さびしかりけり、
 からまつと ささやきにけり。

六

からまつの 林を 出でて、
 浅間嶺に けぶり立つ 見つ。
 浅間嶺に けぶり立つ 見つ。
 からまつの またその うへに。



『落葉松』④
か ら ま つ

七

からまつの 林の 雨は
 さびしけど いよよしづけし。
 かんこ鳥どり 鳴けるのみなる。
 からまつの 濡るるのみなる。

八

世の中よ、 あはれなりけり。
 常なれど うれしかりけり。
 山川に 山がはの音、
 からまつに からまつの かぜ。

長く続く「からまつ」の繰り返しは、まさにからまつの 林。

八の連まで読み進める、不思議とすがすがしい気分になります。

『論語・學而第一』

孔子

子曰く、

学びて時にこれを習う、

亦説ばしからずや。

朋有り遠方より来たる、

亦樂しからずや。

人知らずして慍みず、

亦君子ならずや。



孔子の論語は、「學而第一」「爲政第二」より、それぞれの有名箇所
を書き下し文で載せました。

『論語・爲政第二』

孔子

吾十有五にして

学に志す。

三十にして立つ。

四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳順う。

七十にして心の欲する所に従って

矩を踰えず。



「三十にして」「立つ」というように、セットで覚えましょう。
後半ページに、年齢と対応する熟語の覚え方を載せています。

『実語教』

①

弘法大師 空海？
こうぼうだいし くうかい



山やま高たかきが故ゆえに貴たつとからず。
木き有あるを以もつて貴たつとしとす。

人ひと肥こえたるが故ゆえに貴たつとからず。
智ち有あるを以もつて貴たつとしとす。

富とみは是これ一いっしょう生の財たから。
身み滅めつすれば即すなわち共ともに滅めつす。

智ちは是これ万ばん代の財たから。
命いのち終おわれば即すなわち随したがって行ゆく。

『実語教』

②

玉たま磨みがかざれば光ひかり無なし。
光ひかり無なきを石せき瓦がとす。

人ひと学まなばざれば智ち無なし。
智ち無なきを愚ぐ人じんとす。

倉くらの内うちの財ざいは朽くちること有あり。
身みの内うちの才さいは朽くちること無なし。

千ぜん兩りょう金きんを積つむと雖いへども。
一いち日じつの学がくに如しかず。

寺子屋の素読用教材。空海の作とも言われています。

福澤諭吉の「学問のすゝめ」冒頭にも登場。諭吉も暗唱していたということです。

『学問のすすめ』①

福澤諭吉
ふくざわ ゆききち



天は人の上に人を造らず
人の下に人を造らず
と言えり。

されば天より人を生ずるには、

万人は万人

皆同じ位にして、

生れながら

貴賤上下の差別なく、

あまりのも有名な、「学問のすすめ」の冒頭。

ことばの響きも鋭く、読みやすいのが特徴です。

『学問のすすめ』②

万物の霊たる身と

心との働きをもつて

天地の間にある

よろずの者を資り、

もつて衣食住の用を達し、

自由自在、

互いに人の妨げをなさずして

各々安楽に

この世を渡らしめ給うの

趣意なり。

されども今いま広くひろ

『学問がくもんのすゝめ』③

この人間にんげん世界せかいを見渡みわたすに、

かしこひとき人ひとあり、

おろかなる人ひとあり、

貧まずしきもあり、

富とめるもあり、

貴きじん人もあり、

下人げにんもありて、

その有ありさま様

雲くもと泥どろとの相違そういあるに

似にたるは何なんぞや。

『学問がくもんのすゝめ』④

その次第しだい

甚はなはだ明あきらかなり。

実語教じつごぎょうに、

人ひと学まなばざれば智ちなし、

智ちなき者ものは愚ぐ人じんなりとあり。

されば賢人けんじんと愚人ぐじんとの別べつは、

学まなぶと学まなばざるよとに由よって

出来いでるものなり。

『摩訶般若波羅蜜多心經』

唐三藏法師

玄奘

譯



1

觀自在菩薩

行深般若波羅蜜多時

照見五蘊皆空

度一切苦厄



2

舍利子

色不異空

空不異色

色即是空

空即是色

受想行識

亦復如是



3

舍利子

是諸法空相

不生不滅

不垢不淨

不增不減



4

是故空中

無色

無受想行識

無眼耳鼻舌身意

無色聲香味觸法

無眼界

乃至無意識界



無無明
むむみょう

亦無無明盡
やくむむみょうじん

乃至無老死
ないしむろうし

亦無老死盡
やくむろうしじん

無苦集滅道
むくしゅうめつどう

無智亦無得
むちやくむとく

以無所得故
いむしょとくこ

菩提薩埵
ぼだいさつた

依般若波羅蜜多故
えはんにやはらみった多故

心無罣礙
しんむけいげ

無罣礙故
むけいげこ

無有恐怖
むうくふ



遠離一切顛倒夢想
おんりいつさいてんどうむそう

究竟涅槃
くきょうねはん

三世諸佛
さんぜしよぶつ

依般若波羅蜜多故
えはんにやはらみった多故

得阿耨多羅三藐三菩提
とくあのおくたらさんみやくさんぼだい

故知般若波羅蜜多
こちはんにはらみった

是大神咒
ぜだいにじんしゆ

是大明咒
ぜだいまいようしゆ

是無上咒
ぜむじようしゆ

是無等等咒
ぜむどうどうしゆ

能除一切苦
のうじよいつさいく

真實不虛
しんじつふこ



故說般若波羅蜜多咒
こせつはんにはらみったしゆ

即說咒曰
そくせつしゆわつ

羯帝羯帝
ぎやあていぎやあてい

般羅羯帝
はらぎやあてい

般羅僧羯帝
はらそうぎやあてい

菩提僧莎訶
ぼじそわか

般若波羅蜜多心經
はんにはらみったしんぎよう

般若波羅蜜多心經

最も難解とされる題材の一つ。漢字や意味理解は確かに難しいかもしれませんが、
もっと ぶんかい たいざい ひと かんじ いみりかい たし びずか

音読や暗唱は別物。気に入った箇所から、徐々に覚えていきましょう。
おんどく あんしょう べつもの き い かしよ じょよ おぼ

(参考) 嫌い箸 一覧

- 刺し箸 さし ばし 箸を食べ物に突き刺して食べる。危険。
指し箸 さし ばし 箸で人や料理を指差すこと。不快。
探り箸 さぐり ばし 汁物など食器の中でかき混ぜて中身を探ること。不快。
立て箸 たて ばし ご飯の上に箸を突き刺すこと。仏箸。仏事を連想するので縁起が悪く、不快。
横箸 よこばし 二本の箸を揃え、スプーンのように料理をすくい上げること。行儀が悪い。
迷い箸 まよ ばし どの料理にしようかと迷い、料理の上で箸をあちこち動かすこと。不快。
空箸 そらばし 箸を一度料理につけながら、食べずに箸を置くこと。不快。
寄せ箸 よせ ばし 食器を箸で手前に引き寄せること。行儀が悪い。
移り箸 うつり ばし いったん取りかけてからほかの料理に箸を移すこと。不快。
涙箸 なみだばし 箸の先から汁をぼたぼた落とすこと。不衛生。不快。
舐り箸 ねぶり ばし 箸についたものを口で舐めること。不快。
渡し箸 わた ばし 食事途中で箸を食器の上に渡して置くこと。橋箸。「ご馳走様」と誤解。
掻き箸 かき ばし 箸で頭や腕などを掻くこと。不衛生。危険。
噛み箸 かみ ばし 箸の先を噛むこと。行儀が悪い。
啜え箸 くわえ ばし 箸を置かず、口にくわえたまま箸から手を離すこと。行儀が悪い。
挟み箸 くわえ ばし 食器に盛った料理を箸でかき回し、自分の好物だけ取り出すこと。不快。
込み箸 こみ ばし 口に入った食べ物を、さらに箸で口の奥へと押し込むこと。危険。不快。
拝み箸 おがみ ばし 両手で箸を挟み拝むようにすること。「いただきます」は、置いたままがエチケット。
逆さ箸 さか ばし 複数人で食べる時、箸の持ち手で料理を取ること。不衛生。見栄えが悪い。
重ね箸 かさね ばし 一つの好きなおかずばかり次々と重ねて食べる。不快。
透かし箸 すかし ばし 魚の表面を食べた後、ひっくり返さず骨越しに透かして食べる。無精。
拵り箸 せせり ばし 箸を楊枝の代わりにして歯をほじくる(拵る)こと。不快。行儀が悪い。
落とし箸 おとし ばし 食事中に箸を床に落とすこと。不衛生。落としたり、取り替えること。
箸渡し はしわた ばし 箸と箸とで料理のやり取りをすること。箸のつまみ合い。仏事を連想。不快。
直箸 じかばし 大皿の料理を自分の箸で取り分けること。不衛生。
膳越し ぜんごし 膳の向こうにある料理を手で取り上げないで箸で取ること。無精。不快。
揃え箸 そろえ ばし 机や食器などに箸を突き立て、箸の先を揃えること。行儀が悪い。無精。
受け箸 うけ ばし 箸を持ったまま「おかわり」をすること。行儀が悪い。無精。
洗い箸 あら ばし 汁物などの食器の中で箸を洗うこと。不快。
違い箸 ちが ばし 異質の箸を一对にして使うこと。仏事を連想するので縁起が悪く、不快。
千切り箸 ちぎり ばし 箸を1本ずつ両手に持って、料理を千切ること。行儀が悪い。
握り箸 にぎ ばし 箸の機能を果たさない持ち方。また、攻撃を意味するので危険。不快。
二人箸 ににんばし 一つの食器の上で、二人が一緒に同じ料理を挟むこと。仏事を連想し、不快。
持ち箸 もち ばし 箸を持った手で同時に他の食器を持つこと。無精。
挽ぎ箸 もみ ばし 箸先に付いた米粒などを挽ぎ取ること。不快。最初に汁物で箸をぬらすこと。
叩き箸 たた ばし 食器や食卓を箸で叩くこと。不快。無精。不衛生。

嫌い箸

き ら ば し

小橋 好代
お はし すき よ



日本において、マナー違反とされる
にほん いほん
箸の使い方、その一覧です。
はし つか かた いちらん
あれもダメ、これもダメ…。

箸を使うのが嫌いにならないようご注意を。
はし つか きら ちゅうい

① 初級

しよきゆう

刺し箸
さ ばし

指し箸
さ ばし

探り箸
さぐ ばし

立て箸
た ばし

横箸
よこ ばし

迷い箸
まよ ばし

空箸
そら ばし

寄せ箸
よ ばし

移り箸
うつ ばし

涙箸
なみだ ばし

舐り箸
ねぶ ばし

渡し箸
わた ばし

② 中級

ちゅうきゆう

搔き箸
か ばし

噛み箸
か ばし

啜え箸
くわ ばし

抉じ箸
こ ばし

込み箸
こ ばし

拝み箸
おが ばし

逆さ箸
さか ばし

重ね箸
かさ ばし

透かし箸
す ばし

拵り箸
せせ ばし

落とし箸
お ばし

箸渡し
はしわた

③ 上級

じょうきゆう

直箸
じか ばし

膳越し
ぜんご

揃え箸
そろ ばし

受け箸
う ばし

洗い箸
あら ばし

違い箸
ちが ばし

千切り箸
ちぎ ばし

握り箸
にぎ ばし

二人箸
ににんばし

持ち箸
も ばし

掬ぎ箸
も ばし

叩き箸
たた ばし

「♪リパブリック賛歌♪」(ヨドシカメラ)に乗せて
さんか の
さしばし・さしばし・さぐりばし～ たてばし・よこばし・まよいばし～
そらばし・よせばし・うつりばし～ なみだばし・ねぶりばし・わたしばし!

歴史人物

れ き し じ ん ぶ つ

小学校学習指導要領に示されている42名の歴史人物です。
しょうがっこうがくしゅうしどうようりょう しめ めい れきしじんぶつ

順番に覚えることで、歴史の流れがおおよそ分かります。
じゅんばん おぼ れきし なが わ

- | | | | | | |
|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| 1 卑弥呼
ひみこ
ミミファ |  | 15 北条 時宗
ほうじょう ときむね
ミミミファ ソファミ |  | 29 ペリー
どる |  |
| 2 聖徳 太子
しょうとく たいし
ソ ファミ |  | 16 足利 義満
あしかが よしみつ
レレ レミファ |  | 30 勝 海舟
かつ かいしゅう
か えで や |  |
| 3 小野 妹子
おのの いもこ
レレ レミファ |  | 17 足利 義政
あしかが よしまさ
ミ ミ ミソ |  | 31 西郷 隆盛
さいごう たかもり
つ た は |  |
| 4 中大兄 皇子
なかのおおえの おうじ
ミミミファ ソファ |  | 18 雪舟
せつしゅう
シラ |  | 32 大久保 利通
おおくぼ としみち
やまの ふも |  |
| 5 中臣 鎌足
なかとみの かまたり
ミ ミ レレド |  | 19 ザビエル
ララシレド |  | 33 木戸 孝允
きど たかよし
と の |  |
| 6 聖武 天皇
しょうむ てんのう
ミミファ ソファミ |  | 20 織田 信長
おだ のぶなが
あきの ゆう |  | 34 明治 天皇
めいじ てんのう
すそ もよう |  |
| 7 行基
ぎょうき
レレ |  | 21 豊臣 秀吉
とよとみ ひでよし
ひ に |  | 35 福沢 諭吉
ふくざわ ゆきち
ゆ きや こんこ |  |
| 8 鑑真
がんじん
レミファ |  | 22 徳川 家康
とくがわ いえやす
てる やま |  | 36 大隈 重信
おおくま しげのぶ
あられや こんこ |  |
| 9 藤原 道長
ふじわらの みちなが
ミミミファ ソファ |  | 23 徳川 家光
とくがわ いえみつ
も み じ |  | 37 板垣 退助
いたがき たいすけ
ふっては ふっては |  |
| 10 紫 式部
むらさき しきぶ
ミミ レレド |  | 24 近松 門左衛門
ちかまつ もんざえもん
こいもうす |  | 38 伊藤 博文
いどう ひろふみ
ずんずん つもる |  |
| 11 清 少納言
せい しょうなごん
ララ ラシド シラ |  | 25 歌川 広重
うたがわ ひろしげ
い も |  | 39 陸奥 宗光
むつ おねみつ
やまも のはらも |  |
| 12 平 清盛
たいらの きよもり
シソ ソラファ |  | 26 本居 宣長
もとおり のりなが
か ず ある |  | 40 東郷 平八郎
とうごう へいはちろう
わたぼうし かぶり |  |
| 13 源 頼朝
みなもとの よりとも
ソソソソ ソソソファミ |  | 27 杉田 玄白
すぎた げんぱく
な か に |  | 41 小村 寿太郎
こむら じゅたろう
か れき のこらず |  |
| 14 源 義経
みなもとの よしつね
ファ ファミ レミファ |  | 28 伊能 忠敬
いのう ただたか
まつを いる |  | 42 野口 英世
のぐち ひでよ
はなが さく |  |

時代区分

じ だ い く ぶ ん

時代区分には諸説あります。
より細かく分けることもできます。
ここでは小学校教科書に出てくる、
一般的な時代区分を載せました。

縄	文
じょう	もん
弥	生
や よ い	
古	墳
こ	ふん
飛	鳥
あ す か	
奈	良
な	ら
平	安
へい	あん
鎌	倉
かま	くら
室	町
むろ	まち

安土桃山
あ づ ち も も や ま

江	戸
え	ど
明	治
めい	じ
大	正
たい	しょう
昭	和
しょう	わ
平	成
へい	せい

歴史人物
れきし じんぶつ

「♪夏の思い出♪」

「♪もみじ♪」

「♪雪♪」

にのせて、

読みましょう。

かなり強引な

替え歌ですが、

歌の勢いに

任せてみましょう。

「♪春が来た♪」に乗せて

じょうもん やよい こふん あすか
は るが きた はるが きた

な ら へいあん かまくら むろまち
ど こ に きた

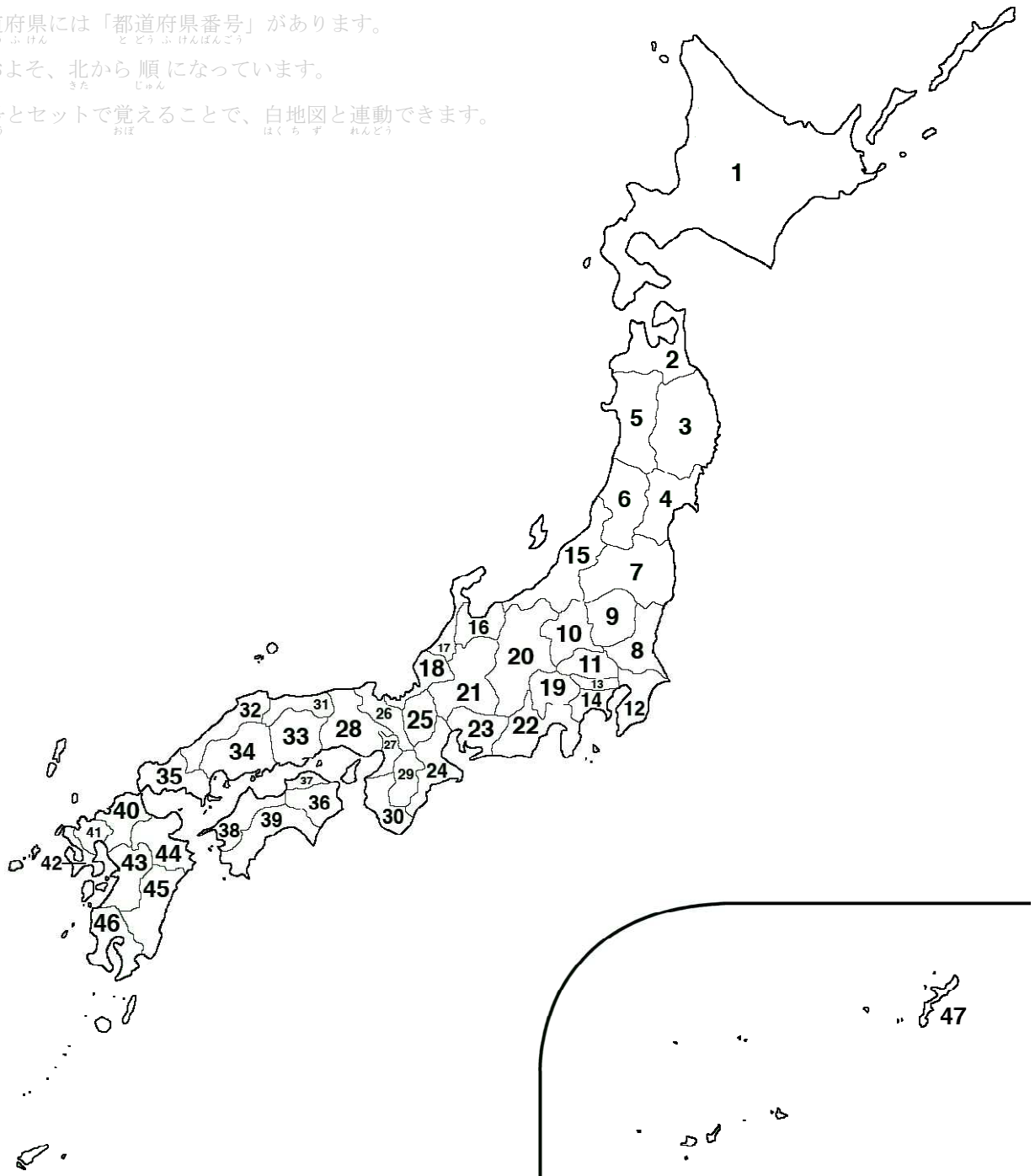
あづちももやま え どめいじー
やまに きた さとに きた

たいしょう しょうわ へい せい
の に も きた

都道府県には「都道府県番号」があります。
とどうふけん とどうふけんばんごう

おおよそ、北から順になっています。
きた じゆん

番号とセットで覚えることで、白地図と連動できます。
ばんごう おぼ はくちず れんどう



- ① (初級) 都道府県名を読み上げましょう。
しよきゅう とどうふけんめい よ あ
- ② (中級) 白地図を見ながら、番号と都道府県名を読み上げましょう。
ちゅうきゅう はくちず み ばんごう とどうふけんめい よ あ

分からないときは、左ページを参考にしましょう。
わ ひだり さんこう

- ③ (上級) 何も見ずに、番号と都道府県名を読み上げましょう。
じょうきゅう なに み ばんごう とどうふけんめい よ あ

「1 (いち) 北海道、2 (に) 青森、3 (さん) 岩手…4 7 (よんじゅうなな) 沖縄」
ほっかいどう あおもり いわて おきなわ

都道府県

と どう ふ けん

都道府県名は、歌に乗せて覚えるのに最適の題材。
と どう ふ けんめい うた の おぼ さいてき だいさい

手拍子などのリズムと共に、勢いよく読みましょう。
てびょうし ととも いきお よ

1 北海道
ほっか いどう

2 青森
あお もり

3 岩手
いわ て

4 宮城
みやぎ

5 秋田
あき た

6 山形
やま がた

7 福島
ふく しま

8 茨城
いばら き

9 栃木
とち き

10 群馬
ぐん ま

11 埼玉
さい たま

12 千葉
ち ば

13 東京
とう きょう

14 神奈川
か な がわ

15 新潟
にい がた

16 富山
と やま

17 石川
いし かわ

18 福井
ふく い

19 山梨
やま なし

20 長野
なが の

21 岐阜
ぎ ふ

22 静岡
しず おか

23 愛知
あい ち

24 三重
み え

25 滋賀
し が

26 京都
きょう と

27 大阪
おお さか

28 兵庫
ひょう ご

29 奈良
な ら

30 和歌山
わ か やま

31 鳥取
とっ とり

32 島根
しま ね

33 岡山
おか やま

34 広島
ひろ しま

35 山口
やま ぐち

36 徳島
とく しま

37 香川
か がわ

38 愛媛
え ひめ

39 高知
こう ち

40 福岡
ふく おか

41 佐賀
さ が

42 長崎
なが さき

43 熊本
くま もと

44 大分
おお いた

45 宮崎
みや ざき

46 鹿児島
か ご しま

47 沖縄
おき なわ

「♪せんろはつづくよ どこまでも♪」に乗せて。 県名1つを2拍ずつ。

ほっかいど あおもり いわて みやぎ あきた やまがた ふくしま いばらき...
ソレソラ シ ソ トソラ シ

... さがながさき くまもとおいた みやざき かがしま おき なわ (最後だけ3拍)
1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 .
レレレ ソ ファ ミ ミ ラ ソ ファファファ ミ ファ ソ

論語の年齢

ろんご ねんれい

15歳	志学
さい	しがく
30歳	而立
さい	じりつ
40歳	不惑
さい	ふわく
50歳	知命
さい	ちめい
60歳	耳順
さい	じじゆん
70歳	従心
さい	じゅうしん

「♪シャボン玉♪」に乗せて

じゅうごさい しがく
しゃぼんだま とんだ

さんじっさい じりつ
やねまで とんだ

よんじっさい ふわく
やねまで とんで

ごじっさい ちめい
こわれて きえた

ろくじっさい じじゆん
かぜかぜ ふくな

ななじっさい じゅうしん
しゃぼんだま とぼそう

『論語・爲政第二』参照。
ろんご いせいだいに さんじょう

長寿の祝歳

ちやうじゆ いわいどし

還暦	61
かんれき	
古希	70
こき	
喜寿	77
きじゆ	
傘寿	80
さんじゆ	
米寿	88
べいじゆ	
卒寿	90
そつじゆ	
白寿	99
はくじゆ	
百寿	100
ひやくじゆ	

「♪ふるさと♪」に乗せて

かんれき ろくじゆういち
うさぎお いし

こき ななじゆ
かのやま

きじゆ ななじゆ なな
こぶ なつ りし

さんじゆ はちじゆう
かのかわ

べいじゆ はちじゆうはち
ゆめは いまも

そつじゆ きゆうじゆう
めーぐ りーて

はくじゆ きゆうじゆうきゆう
わすれが たき

ひやくじゆ ひやく
ふるさと

語源を調べるのも楽しいでしょう。
ごげん じら たの

四神相応

し じん そう おう

是非、セットで覚えましょう。
ぜ ひ おぼ

絵や図があると理解も深まります。
え ず り が い ふ か

四方

し ほう

東 (ひがし)
トウ

南 (みなみ)
ナン

西 (にし)
シャー

北 (きた)
ペー

四季②

し き

青春
せ い し ゅ ん

朱夏
し ゅ か

白秋
は く し ゅ う

玄冬
げ ん と う

四季①

し き

春 (はる)
し ゅ ん

夏 (なつ)
か

秋 (あき)
し ゅ う

冬 (ふゆ)
と う

四神

し じん

青龍
せ い り ゅ う

朱雀
す ざ く

白虎
び や っ こ

玄武
げ ん ぶ

「♪ももたろう♪」に乗せて

とうなんしゃーペー しゆ んかしゆうとう せいしゆんしゆ か はくしゆうげんとう

も もたろうさん も もたろうさん おこしにつけた き びだんご

せいりゆうすざく びや っこげんぶ

ひとつ わたしに く ださいな

二十四節気 (平成27年版)

に じゅう し せつ き

へい せい

ねん ばん

太陽暦の1年を24等分した季節の呼称。
たいようれき ねん どうぶん きせつ こしょう

覚えると、子どもとの会話も盛り上がるでしょう。
おぼ こ かいわ も あ

小寒 1/6
しょうかん

大寒 1/20
だいかん

立春 2/4
りっしゅん

雨水 2/19
うすい

啓蟄 3/6
けいちつ

春分 3/21
しゅんぶん

清明 4/5
せいめい

穀雨 4/20
こくう

立夏 5/6
りっか

小満 5/21
しょうまん

芒種 6/6
ぼうしゅ

夏至 6/22
げし

小暑 7/7
しょうしょ

大暑 7/23
たいしょ

立秋 8/8
りっしゅう

処暑 8/23
しょしょ

白露 9/8
はくろ

秋分 9/23
しゅうぶん

寒露 10/8
かんろ

霜降 10/24
そうこう

立冬 11/8
りっとう

小雪 11/23
しょうせつ

大雪 12/7
たいせつ

冬至 12/22
とうじ

「♪きらきらぼし♪」に乗せて

しょうかん だいかん りっしゅん う すい けいちつ しゅんぶん せいめい こくう
ド ド ソ ソ ラ ラ ソ ファ ファ ミ ミ レ レ ド

りっか しょうまん ぼうしゅ げ し しょうしょ たいしょ りっしゅう しょしょ
ソ ソ ファ ファ ミ ミ レ ソ ソ ファ ファ ミ ミ レ

は くら しゅうぶん か んろ そうこう りっとう しょうせつ たいせつ とうじ
ド ド ソ ソ ラ ラ ソ ファ ファ ミ ミ レ レ ド

陰暦十二ヶ月

いんれきじゆうにかげつ

旧暦の月の呼称。
きゅうれき つき こしょう

旧暦カレンダーをそばに置くことで、
きゅうれき がお

由来についても納得できます。
ゆらい なっとく

1月 睦月
がつ むつき

2月 如月
がつ きさらぎ

3月 弥生
がつ やよい

4月 卯月
がつ うづき

5月 皐月
がつ さつき

6月 水無月
がつ みなづき

7月 文月
がつ ふみづき

8月 葉月
がつ はづき

9月 長月
がつ ながつき

10月 神無月
がつ かなづき

11月 霜月
がつ しもつき

12月 師走
がつ しわす

「♪つき♪」に乗せて

むつき きさらぎ やよい うづき

でた でた つきが

さーつき みなづき ふみづき はづき

まーるい まーるい まんまるい

ながつき かなづき しもつき しわす

ぼーんの ような つきが

黄道十二星座

こ う ど う じ ゅ う に せ い ざ

順番まではなかなか覚えられない星座。
じ ゅ ん ば ん おぼ せ い ざ
メロディーに乗せれば、あっという間です。
の ま

牡羊 お ひつじ	3/21 ~	4/19
牡牛 お うし	4/20 ~	5/20
双子 ふた ご	5/21 ~	6/21
蟹 かに	6/22 ~	7/22
獅子 し し	7/23 ~	8/22
乙女 おと め	8/23 ~	9/22
天秤 てん びん	9/23 ~	10/23
蠍 さそり	10/24 ~	11/22
射手座 い て ざ	11/23 ~	12/21
山羊 や ぎ	12/22 ~	1/19
水瓶 みず が め	1/20 ~	2/18
魚 う お	2/19 ~	3/20

「♪ロンドン橋渡ろう♪」に乗せて (リズムを整えるため、射手「座」としてはいます)
の ばしわた ととの い て ざ

おひつじ おうし ふ た ご かにしし おとめ てん びん さそり い て ざ やぎ みずがめ う お
ソ ラソファミファソ レミファ ミファソ ソ ラソファミファソ レ ソ ミド

六輝(六曜)

ろ っ き ろ く よ う

十二支

じ ゅ う に し

先勝
せん しょう

友引
とも びき

先負
せん ぶ

仏滅
ぶつ めつ

大安
たい あん

赤口
しゃっ こう

① 子 (鼠)
ね ねずみ

② 丑 (牛)
うし うし

③ 寅 (虎)
とら とら

④ 卯 (兔)
う うさぎ

⑤ 辰 (龍)
たつ りゅう

⑥ 巳 (蛇)
み へび

⑦ 午 (馬)
うま うま

⑧ 未 (羊)
ひつじ ひつじ

⑨ 申 (猿)
さる さる

⑩ 酉 (鶏)
とり にわとり

⑪ 戌 (犬)
いぬ いぬ

⑫ 亥 (猪) (豚)
い いのしし ぶた
日本 中国
にほん ちゅうごく

十二種の動物。
じゅうにしゆのどうぶつ。
方位、年、時刻などで用いられます。

現在でも広く使われる、6種の暦。カレンダーにもしばしば登場します。
原則、順番どおりに並んでいるので、覚えておくとなにかと便利です。

「♪ゆかいな牧場♪」に乗せて

せんしょう ともびき せんぶ ぶつめつ たいあん しゃっ こう (十二支)
ソ ソ ソ レ ミ ミ レ シ シ ラ ラ ソ

「♪歓喜の歌♪」(ベートーヴェン作曲)に乗せて

ね うし とら う たつ み う ま ひつ じ さる とり い ぬ い
ミ ミ ファ ソ ソ ファ ミ レ ド ド レ ミ ミ レレ

五行を、陰と陽に分けたもの。
ごぎょう いん よう わ
1234, ABCDのようにも用いられます。
もち

十干

じっかん

(訓読み)
くんよ

木兄	甲
きのえ	きのえ
木弟	乙
きのと	きのと
火兄	丙
ひのえ	ひのえ
火弟	丁
ひのと	ひのと
土兄	戊
つちのえ	つちのえ
土弟	己
つちのと	つちのと
金兄	庚
かのえ	かのえ
金弟	辛
かのと	かのと
水兄	壬
みずのえ	みずのえ
水弟	癸
みずのと	みずのと

(音読み)
おんよ

①	甲
	こう
②	乙
	おつ
③	丙
	へい
④	丁
	てい
⑤	戊
	ぼ
⑥	己
	き
⑦	庚
	こう
⑧	辛
	しん
⑨	壬
	じん
⑩	癸
	き

これ十干

じっかん

「♪黄金虫♪」に乗せて②
こがねむしの

こう おつ へい てい ぼ き こう しん じ ん き これ じっ かん
あ め や で み ず あ め か っ て き た

五行

ご ぎょう

万物を構成すると考えられた五元素。
ばんぶつ こうせい かんが ごげんそ
十干とセットで覚えましょう。
じっかん おぼ

(訓読み)
くん よ

木
も く

火
か

土
ど

金
きん

水
すい

(音読み)
おん よ

木
き の

火
ひ の

土
つちの

金
かの

水
みずの

これ五行

ご ぎょう

「♪黄金虫♪」に乗せて①
こがねむし の

もく かど きん すい これ ごぎょう きの ひの つちの かの みずの
こが ねむ し は かね もち だ かね ぐら たてた くら たてた

重・倍

じゅう ばい

- ① シングル
- ② ダブル
- ③ トリプル
- ④ クアトラプル
- ⑤ クインティプル
- ⑥ セクスタプル
- ⑦ セプタプル
- ⑧ オクタプル
- ⑨ ノナプル
- ⑩ ディカプル

アイスクリーム、ベッド、フィギニアなどでお馴染みの重奏。
トリプルの先も、メロディーに乗せると簡単に覚えられます。

重奏

じゅう そう

- ① ソロ
- ② デュオ
- ③ トリオ
- ④ カルテット
- ⑤ クインテット
- ⑥ セクステット
- ⑦ セプテット
- ⑧ オクテット
- ⑨ ノネット
- ⑩ デクテット

音楽の演奏形態スポーツなどで幅広く用いられる「重奏」。
グループ活動において、「〇〇カルテット」などと
名前を付けて呼ぶと、子どもたちもたいへん喜びます。

重倍「♪ジングルベル♪」に乗せて

シングルダブル ト リプル クアトラプル クインティプル
ミミミ ミミミ ミ ソ ド レ ミ

セクスタプル セプタプル オクタプル ノナプル ディカプル
ファ ファ ファ ファファ ミ ミ ミミ ミ レ レ ド レ ソ

重奏「♪ぶんぶんぶん♪」に乗せて

ソロ デュオ トリオ カルテット クインテット セクステット セプテット オクテット
ソ ファ ミ レミファレド ミファソミ レミファレ ミファソミ レミファレ

ノ ネット ト デクテット
ソ ファ ミ レミファレド

国際単位

こ く さ い た ん い

国際化が進み、様々な場面で耳にするようになった、
国際単位。コンピュータの世界でも使用されます。

1 籽分の1 じょぶん	10^{-24}	0.00 000 000 000 000 000 000 000 1	yocto ヨ ク ト
10 垓分の1 がいぶん	10^{-21}	0.00 000 000 000 000 000 000 1	zepto ゼ プ ト
100 京分の1 けいぶん	10^{-18}	0.00 000 000 000 000 000 1	atto ア ッ ト
1000 兆分の1 ちようぶん	10^{-15}	0.00 000 000 000 000 1	femto フ ェ ム ト
1 兆分の1 ちようぶん	10^{-12}	0.00 000 000 000 1	pico ピ コ
10 億分の1 おくぶん	10^{-9}	0.00 000 000 1	nano ナ ノ
100 万分の1 まんぶん	10^{-6}	0.00 000 1	μ (micro) マイクロ
1000 分の1 ぶん	10^{-3}	0.00 1	milli ミ リ
100 分の1 ぶん	10^{-2}	0.01	centi セ ン チ
10 分の1 ぶん	10^{-1}	0.1	deci デ シ
	deca デ カ	10	10^1 10倍 ばい
	hecto ヘ ク ト	100	10^2 100倍 ばい
	kiro キ ロ	1,000	10^3 1000倍 ばい
	Mega メ ガ	1,000,000	10^6 100万倍 まんばい
	Giga ギ ガ	1,000,000,000	10^9 10億倍 おくばい
	Tera テ ラ	1,000,000,000,000	10^{12} 1兆倍 ちようばい
	Peta ペ タ	1,000,000,000,000,000	10^{15} 1000兆倍 ちようばい
	Exa エ ク サ	1,000,000,000,000,000,000	10^{18} 100京倍 きやうばい
	Zetta ゼ ッ タ	1,000,000,000,000,000,000,000	10^{21} 10垓倍 がいばい
	Yotta ヨ ッ タ	1,000,000,000,000,000,000,000,000	10^{24} 1籽倍 じょばい

「♪かたつむり♪」に乗せて

ヨ 外ゼプト ア ッ ト フェムト ビ コナノ マイクロ ミ リ センチ デ シ デカ ヘ ク ト キロ
で ん で ん む し む し か たつむり お ま え の あ た ま は ど こ に あ る

メ ガ ギ ガ テ ラ ペ タ エ ク サ ゼ ッ タ ヨ ッ タ
つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ

10 ⁻¹	分	ぶ
0.1		
10 ⁻²	厘	りん
0.01		
10 ⁻³	毛	もう
0.001		
10 ⁻⁴	糸	し
0.0001		
10 ⁻⁵	忽	こつ
0.0000,1		
10 ⁻⁶	微	び
0.0000,01		
10 ⁻⁷	纖	せん
0.0000,001		
10 ⁻⁸	沙	しゃ
0.0000,0001		
10 ⁻⁹	塵	じん
0.0000,0000,1		
10 ⁻¹⁰	埃	あい
0.0000,0000,01		
10 ⁻¹¹	渺	びょう
0.0000,0000,001		
10 ⁻¹²	漠	ぼく
0.0000,0000,0001		
10 ⁻¹³	糊	もこ
0.0000,0000,0000,1		
10 ⁻¹⁴	逡巡	しゅんじゅん
0.0000,0000,0000,01		
10 ⁻¹⁵	須臾	しゅ じゅ
0.0000,0000,0000,001		
10 ⁻¹⁶	瞬息	しゅんそく
0.0000,0000,0000,0001		
10 ⁻¹⁷	彈指	だん し
0.0000,0000,0000,0000,1		
10 ⁻¹⁸	刹那	せつ な
0.0000,0000,0000,0000,01		
10 ⁻¹⁹	六徳	りつ とく
0.0000,0000,0000,0000,001		
10 ⁻²⁰	虚空	こくう
0.0000,0000,0000,0000,0001		
10 ⁻²¹	清浄	せいじょう
0.0000,0000,0000,0000,0000,1		

数の単位②

かず たん い

どんどん小さくなる数の単位。

数の単位①に続けて、2番のように
読みましょう。

「♪うさぎとかめ♪」に乗せて

ぶ りん もう し こつ び せん
もしもしかめよかめさんよ

しゃ じん あい びょう ぼく もこ
せかいのうちで おまえほど

しゅんじゅん しゅゆ しゅんそく だんし
あゆみの のろい もの は ない

せつな りつとく こくう せいじょう
どうしてそんなに のろいのか

数の単位①に続けてよみましょう。

かず たん い つづ

数の単位 ①

かず たん い

どこまでも大きくなる、数の単位。

子どもたちが大好きな題材のひとつです。

メロディーに乗せれば、小さいお子さんも

簡単に覚えられます。

「♪うさぎとかめ♪」に乗せて

いち じゅう ひゃく せん まん おく ちょう
もし もし かめ よ かめ さん よ

けい がい じょ じょ こう かん せい
せかいの うち で おま えほ ど

たい ごく ごうがしゃ あ そう ぎ
あゆみの のろい ものはない

な ゆた ふかしぎ むりょうたいすう
どうして そんなに のろ いのか

上記は一例です。

歌のリズムに乗せて、

勢いで読みましょう。

一 10^0
いち 1

十 10^1
じゅう 10

百 10^2
ひゃく 100

千 10^3
せん 1000

万 10^4
まん 1,0000

億 10^8
おく 1,0000,0000

兆 10^{12}
ちょう 1,0000,0000,0000

京 10^{16}
けい 1,0000,0000,0000,0000

垓 10^{20}
がい 1,0000,0000,0000,0000,0000

杼 10^{24}
じょ 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000

穰 10^{28}
じょう 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

溝 10^{32}
こう 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

澗 10^{36}
かん 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

正 10^{40}
せい 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

載 10^{44}
さい 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

極 10^{48}
ごく 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

恒河沙 10^{52}
ごう が しゃ 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

阿僧祇 10^{56}
あ そう ぎ 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

那由他 10^{60}
な ゆ た 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

不可思議 10^{64}
ふ か し ぎ 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

無量大数 10^{68}
む りょう たい すう 1,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000,0000

2の冪乗

べ き じ ょ う

様々な場面で活用できる「2の冪乗」。

呪文のような意味の全くない語呂ですが、

メロディに乗せて繰り返すと、勢いで覚えられます。

唱えながら、スラスラと書けるようになれば完璧です。

0 乗 じょう	1 イ	$2^0 = 1$	「♪どんぐり ころころ♪」に乗せて
1 乗 じょう	2 ニ	$2^1 = 1 \times 2 = 2$	イニシヤ イロミニ ムシイニヤ どんぐり ころころ どんぶりこ
2 乗 じょう	4 シ	$2^2 = 1 \times 2 \times 2 = 4$	ニツコロ コイニ イレニシニレシヤ おいけに はまって さあたい へん
3 乗 じょう	8 ヤ	$2^3 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 = 8$	シワクロ ハイクニ イロミヤシ どじょうが でてきて こんにちは
4 乗 じょう	16 イロ	$2^4 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 16$	ミー ニナ ローヤ ムココサム ぼっちゃんいっしょに あそびましょ
5 乗 じょう	32 ミニ	$2^5 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 32$	
6 乗 じょう	64 ムシ	$2^6 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 64$	
7 乗 じょう	128 イニヤ	$2^7 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 128$	
8 乗 じょう	256 ニツコロ	$2^8 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 256$	
9 乗 じょう	512 コイニ	$2^9 = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 512$	
10 乗 じょう	1024 イレニシ	$2^{10} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 1024$	
11 乗 じょう	2048 ニレシヤ	$2^{11} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 2048$	
12 乗 じょう	4096 シワクロ	$2^{12} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 4096$	
13 乗 じょう	8192 ハイクニ	$2^{13} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 8192$	
14 乗 じょう	16384 イロミヤシ	$2^{14} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 16384$	
15 乗 じょう	32768 ミーニナローヤ	$2^{15} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 32768$	
16 乗 じょう	65536 ムココサム	$2^{16} = 1 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 65536$	

3.14の段

パイ だん

円周率3.14…のことをパイ（π）といいます。
3の段を唱えるように、読みましょう。

3.14 × 1 = 3.14	パイ いちが さん いし
3.14 × 2 = 6.28	パイ にか ろく にや
3.14 × 3 = 9.42	パイざ んが く しに
3.14 × 4 = 12.56	パイし じゅうにご ろく
3.14 × 5 = 15.70	パイご じゅうごな れい
3.14 × 6 = 18.84	パイぶ ろく じゅうはちはし
3.14 × 7 = 21.98	パイしち にじゅう いち くや
3.14 × 8 = 25.12	パイぱ にじゅう ごい に
3.14 × 9 = 28.26	パイく にじゅう はちじ ろう

「♪かもめの水兵さん」に乗せて

パイ にか ろく にや パイざんが く しに
か も め ーの すい へい さん

円の円周や面積を求める際、

【1～9】×3.14の計算を

何度もすることになります。

3.14の倍数を 予め覚えておきましょう。

計算時間を圧倒的に短縮できるはずです。

例1) 直径3cmの円の円周

$$3 \text{ (直径)} \times 3.14 = 9.42 \text{ (cm)}$$

※直径の場合、そのまま使える

例2) 半径3cmの円の面積

$$3 \text{ (半径)} \times 3 \text{ (半径)} \times 3.14$$

$$= 9 \times 3.14$$

$$= 28.26 \text{ (cm}^2\text{)}$$

例3) 半径7cmの円の円周

$$2 \times 7 \text{ (半径)} \times 3.14 \\ = 14 \times 3.14$$

$$\begin{array}{r} 3.14 \\ \times 14 \\ \hline 1256 \\ 314 \\ \hline 4396 \end{array} \quad \begin{array}{l} \leftarrow 314 \times 4 \\ \leftarrow 314 \times 1 \end{array}$$

例4) 半径7cmの円の面積

$$7 \text{ (半径)} \times 7 \text{ (半径)} \times 3.14 \\ = 49 \times 3.14 \\ = 153.86 \text{ (cm}^2\text{)}$$

(筆算)

$$\begin{array}{r} 3.14 \\ \times 49 \\ \hline 2826 \\ 1256 \\ \hline 15386 \end{array} \quad \begin{array}{l} \leftarrow 314 \times 9 \\ \leftarrow 314 \times 4 \end{array}$$

開立の九九

か い り ゆ う く く

九九を唱えるように、リズムカルに
くくどな
読みましょう。
よ

1 × 1 × 1 = 1	いんいちが いち
2 × 2 × 2 = 8	ににんが はち
3 × 3 × 3 = 27	さざん にじゅうしち
4 × 4 × 4 = 64	しし ろくじゅうし
5 × 5 × 5 = 125	ごご ひゃくにじゅうご
6 × 6 × 6 = 216	ろくろくにひゃくじゅうろく
7 × 7 × 7 = 343	しちしち さんびゃくしじゅうさん
8 × 8 × 8 = 512	はっば ごひゃくじゅうに
9 × 9 × 9 = 729	くく ななひゃくにじゅうく

数学者 岡潔。
すうがくしや おかきよし

幼少時、兄が唱える開平・開立九九を
ようしょうじ あに どな かいへい かいりゅうくく

聞いていたら、自分まで覚えてしまいました。
き じぶん おぼ

しかもそれが大いに役立ったといえます。
おお やくだ

開平の九九①

か い へ い く く

九九を唱えるように、リズムカルに
読みましょう。

$1 \times 1 = 1$	いんいちが いち
$2 \times 2 = 4$	ににんが し
$3 \times 3 = 9$	さざんが く
$4 \times 4 = 16$	しし じゅうろく
$5 \times 5 = 25$	ごご にじゅうご
$6 \times 6 = 36$	ろくろく さんじゅうろく
$7 \times 7 = 49$	しちしち しじゅうく
$8 \times 8 = 64$	はっぱ ろくじゅうし
$9 \times 9 = 81$	くく はちじゅういち
$10 \times 10 = 100$	じゅうじゅうが ひゃく

開平の九九②

か い へ い く く

$11 \times 11 = 121$	いい・いい・いにいー
$12 \times 12 = 144$	いに・いに・いっしし
$13 \times 13 = 169$	いざ・いざ・イラク
$14 \times 14 = 196$	いし・いし・いいくろ
$15 \times 15 = 225$	いご・いご・つづこー
$16 \times 16 = 256$	いろ・いろ・にっこり
$17 \times 17 = 289$	いーな・いーな・つーやく
$18 \times 18 = 324$	いーや・いーや・みによん
$19 \times 19 = 361$	いく・いく・さむい

6の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$6 \times 1 = 6$	ろいちが ろく
$6 \times 2 = 12$	ろくに じゅうに
$6 \times 3 = 18$	ろくさん じゅうはち
$6 \times 4 = 24$	ろくし にじゅうし
$6 \times 5 = 30$	ろくご さんじゅう
$6 \times 6 = 36$	ろくろく さんじゅうろく
$6 \times 7 = 42$	ろくしち じゅうに
$6 \times 8 = 48$	ろくは じゅうはち
$6 \times 9 = 54$	ろくご じゅうし

3の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$3 \times 1 = 3$	さんいちが さん
$3 \times 2 = 6$	さんにか ろく
$3 \times 3 = 9$	さんさんが く
$3 \times 4 = 12$	さんし じゅうに
$3 \times 5 = 15$	さんご じゅうご
$3 \times 6 = 18$	さんぷろく じゅうはち
$3 \times 7 = 21$	さんしち にじゅういち
$3 \times 8 = 24$	さんぱ にじゅうし
$3 \times 9 = 27$	さんく にじゅうしち

5の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$5 \times 1 = 5$	ごいちが ご
$5 \times 2 = 10$	ごに じゅう
$5 \times 3 = 15$	ごさん じゅうご
$5 \times 4 = 20$	ごし にじゅう
$5 \times 5 = 25$	ごご にじゅうご
$5 \times 6 = 30$	ごろく さんじゅう
$5 \times 7 = 35$	ごしち さんじゅうご
$5 \times 8 = 40$	ごは じゅう
$5 \times 9 = 45$	ごっく しじゅうご

2の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$2 \times 1 = 2$	にいちが に
$2 \times 2 = 4$	ににんが し
$2 \times 3 = 6$	にさんが ろく
$2 \times 4 = 8$	にしが はち
$2 \times 5 = 10$	にご じゅう
$2 \times 6 = 12$	にろく じゅうに
$2 \times 7 = 14$	にしち じゅうし
$2 \times 8 = 16$	にはち じゅうろく
$2 \times 9 = 18$	にく じゅうはち

4の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$4 \times 1 = 4$	しいちが し
$4 \times 2 = 8$	しにか はち
$4 \times 3 = 12$	しさん じゅうに
$4 \times 4 = 16$	しし じゅうろく
$4 \times 5 = 20$	しご にじゅう
$4 \times 6 = 24$	しろく にじゅうし
$4 \times 7 = 28$	ししち にじゅうはち
$4 \times 8 = 32$	しは さんじゅうに
$4 \times 9 = 36$	しく さんじゅうろく

1の段 だん 上り のぼ ・ 下り くだ

$1 \times 1 = 1$	いんいちが いち
$1 \times 2 = 2$	いんにか に
$1 \times 3 = 3$	いんさんが さん
$1 \times 4 = 4$	いんしが し
$1 \times 5 = 5$	いんごが ご
$1 \times 6 = 6$	いんろくが ろく
$1 \times 7 = 7$	いんしちが しち
$1 \times 8 = 8$	いんはちが はち
$1 \times 9 = 9$	いんくが く

掛け算九九

か ざん く く

通常は一の段から並んでいる九九を

九の段から並べました。

九の段から唱えることで、

不安定になりがちな七の段や八の段を

より確実に覚えられるでしょう。

七の段や八の段が難しいと言われるのは、

読みにくさに加え、唱える機会の少なさも

原因の一つに挙げられています。

二の段や五の段のように、

何度も繰り返し唱えていけば、

自然と覚えることができます。

昔は、九九八十一（ $9 \times 9 = 81$ ）から

順に、下りながら唱えていました。

そこで「九九」と呼ばれるようになった

とされています。

次の段へうつっても、休みを入れることなく

同じテンポで読み進めるのがポイントです。

例)

「 $9 \times 1 = 9$ 、 $9 \times 2 = 18 \dots 9 \times 9 = 81$ 、

$8 \times 1 = 8$ 、 $8 \times 2 = 16 \dots 8 \times 9 = 72$ 、

$7 \times 1 = 7$ 、 $7 \times 2 = 14 \dots 7 \times 9 = 63$ 、

$6 \times 1 = 5 \dots$ 」

1秒にひとつ（○の段を9秒）のテンポで

読み進めると、81秒で完了します。

慣れるまでは、ややゆっくり読みましょう。

覚えたら、下りにも挑戦しましょう。

9の段 上り・下り

だん のぼ くだ

$9 \times 1 = 9$ いちがく

$9 \times 2 = 18$ くにじゅうはち

$9 \times 3 = 27$ さんにじゅうしち

$9 \times 4 = 36$ しさんじゅうろく

$9 \times 5 = 45$ ごしじゅうご

$9 \times 6 = 54$ くるごじゅうし

$9 \times 7 = 63$ ちちろくじゅうさん

$9 \times 8 = 72$ はしちじゅうに

$9 \times 9 = 81$ くはちじゅういち

8の段 上り・下り

だん のぼ くだ

$8 \times 1 = 8$ はちいちがはち

$8 \times 2 = 16$ はちにじゅうろく

$8 \times 3 = 24$ はちさんにじゅうし

$8 \times 4 = 32$ はちさんじゅうに

$8 \times 5 = 40$ はちごしじゅう

$8 \times 6 = 48$ はちろくしじゅうはち

$8 \times 7 = 56$ はちしちごじゅうろく

$8 \times 8 = 64$ はつぱろくじゅうし

$8 \times 9 = 72$ はつくしちじゅうに

7の段 上り・下り

だん のぼ くだ

$7 \times 1 = 7$ しちいちがしち

$7 \times 2 = 14$ しちにじゅうし

$7 \times 3 = 21$ しちさんにじゅういち

$7 \times 4 = 28$ しちしにじゅうはち

$7 \times 5 = 35$ しちごさんじゅうご

$7 \times 6 = 42$ しちろくしじゅうに

$7 \times 7 = 49$ しちしちしじゅうく

$7 \times 8 = 56$ しちはごじゅうろく

$7 \times 9 = 63$ しちくろくじゅうさん

算数ノートに書くのも良いでしょう。
さんすう かく もよ

1 1 とび

- ① 1 1 じゅういち
- ② 2 2 にじゅうに
- ③ 3 3 さんじゅうさん
- ④ 4 4 よんじゅうよん
- ⑤ 5 5 ごじゅうご
- ⑥ 6 6 ろくじゅうろく
- ⑦ 7 7 ななじゅうなな
- ⑧ 8 8 はちじゅうはち
- ⑨ 9 9 きゅうじゅうきゅう
- ⑩ 1 1 0 ひやくじゅう

1 2 とび

- ① 1 2 じゅうに
- ② 2 4 にじゅうよん
- ③ 3 6 さんじゅうろく
- ④ 4 8 よんじゅうはち
- ⑤ 6 0 ろくじゅう
- ⑥ 7 2 ななじゅうに
- ⑦ 8 4 はちじゅうよん
- ⑧ 9 6 きゅうじゅうろく
- ⑨ 1 0 8 ひやくはち
- ⑩ 1 2 0 ひやくにじゅう

1 3 とび

- ① 1 3 じゅうさん
- ② 2 6 にじゅうろく
- ③ 3 9 さんじゅうきゅう
- ④ 5 2 ごじゅうに
- ⑤ 6 5 ろくじゅうご
- ⑥ 7 8 ななじゅうはち
- ⑦ 9 1 きゅうじゅういち
- ⑧ 1 0 4 ひやくよん
- ⑨ 1 1 7 ひやくじゅうなな
- ⑩ 1 3 0 ひやくさんじゅう

⑩で元の数字の10倍に戻ります。
もと すうじ ばい もと

1 4 とび

- ① 1 4 じゅうよん
- ② 2 8 にじゅうはち
- ③ 4 2 よんじゅうに
- ④ 5 6 ごじゅうろく
- ⑤ 7 0 ななじゅう
- ⑥ 8 4 はちじゅうよん
- ⑦ 9 8 きゅうじゅうはち
- ⑧ 1 1 2 ひやくじゅうに
- ⑨ 1 2 6 ひやくにじゅうろく
- ⑩ 1 4 0 ひやくよんじゅう

1 5 とび

- ① 1 5 じゅうご
- ② 3 0 さんじゅう
- ③ 4 5 よんじゅうご
- ④ 6 0 ろくじゅう
- ⑤ 7 5 ななじゅうご
- ⑥ 9 0 きゅうじゅう
- ⑦ 1 0 5 ひやくご
- ⑧ 1 2 0 ひやくにじゅう
- ⑨ 1 3 5 ひやくさんじゅうご
- ⑩ 1 5 0 ひやくごじゅう

1 6 とび

- ① 1 6 じゅうろく
- ② 3 2 さんじゅうに
- ③ 4 8 よんじゅうはち
- ④ 6 4 ろくじゅうよん
- ⑤ 8 0 はちじゅう
- ⑥ 9 6 きゅうじゅうろく
- ⑦ 1 1 2 ひやくじゅうに
- ⑧ 1 2 8 ひやくにじゅうはち
- ⑨ 1 4 4 ひやくよんじゅうよん
- ⑩ 1 6 0 ひやくろくじゅう

⑩から引くように唱えるのも勉強です。
ひ とび べんきょう

1 7 とび

- ① 1 7 じゅうなな
- ② 3 4 さんじゅうよん
- ③ 5 1 ごじゅういち
- ④ 6 8 ろくじゅうはち
- ⑤ 8 5 はちじゅうご
- ⑥ 1 0 2 ひやくに
- ⑦ 1 1 9 ひやくじゅうきゅう
- ⑧ 1 3 6 ひやくさんじゅうろく
- ⑨ 1 5 3 ひやくごじゅうさん
- ⑩ 1 7 0 ひやくななじゅう

1 8 とび

- ① 1 8 じゅうはち
- ② 3 6 さんじゅうろく
- ③ 5 4 ごじゅうよん
- ④ 7 2 ななじゅうに
- ⑤ 9 0 きゅうじゅう
- ⑥ 1 0 8 ひやくはち
- ⑦ 1 2 6 ひやくにじゅうろく
- ⑧ 1 4 4 ひやくよんじゅうよん
- ⑨ 1 6 2 ひやくろくじゅうに
- ⑩ 1 8 0 ひやくはちじゅう

1 9 とび

- ① 1 9 じゅうきゅう
- ② 3 8 さんじゅうはち
- ③ 5 7 ごじゅうなな
- ④ 7 6 ななじゅうろく
- ⑤ 9 5 きゅうじゅうご
- ⑥ 1 1 4 ひやくじゅうよん
- ⑦ 1 3 3 ひやくさんじゅうさん
- ⑧ 1 5 2 ひやくごじゅうに
- ⑨ 1 7 1 ひやくななじゅういち
- ⑩ 1 9 0 ひやくきゅうじゅう

覚えると便利な「〇〇とび」。
おぼ べんり

2 とび

- ① 2 に
- ② 4 よん
- ③ 6 ろく
- ④ 8 はち
- ⑤ 10 じゅう
- ⑥ 12 じゅうに
- ⑦ 14 じゅうよん
- ⑧ 16 じゅうろく
- ⑨ 18 じゅうはち
- ⑩ 20 にじゅう

3 とび

- ① 3 さん
- ② 6 ろく
- ③ 9 きゅう
- ④ 12 じゅうに
- ⑤ 15 じゅうご
- ⑥ 18 じゅうはち
- ⑦ 21 にじゅういち
- ⑧ 24 にじゅうよん
- ⑨ 27 にじゅうなな
- ⑩ 30 さんじゅう

4 とび

- ① 4 よん
- ② 8 はち
- ③ 12 じゅうに
- ④ 16 じゅうろく
- ⑤ 20 にじゅう
- ⑥ 24 にじゅうよん
- ⑦ 28 にじゅうはち
- ⑧ 32 さんじゅうに
- ⑨ 36 さんじゅうろく
- ⑩ 40 よんじゅう

「1～9とび」は九九に同じ。
くく おな

5 とび

- ① 5 ご
- ② 10 じゅう
- ③ 15 じゅうご
- ④ 20 にじゅう
- ⑤ 25 にじゅうご
- ⑥ 30 さんじゅう
- ⑦ 35 さんじゅうご
- ⑧ 40 よんじゅう
- ⑨ 45 よんじゅうご
- ⑩ 50 ごじゅう

6 とび

- ① 6 ろく
- ② 12 じゅうに
- ③ 18 じゅうはち
- ④ 24 にじゅうよん
- ⑤ 30 さんじゅう
- ⑥ 36 さんじゅうろく
- ⑦ 42 よんじゅうに
- ⑧ 48 よんじゅうはち
- ⑨ 54 ごじゅうよん
- ⑩ 60 ろくじゅう

7 とび

- ① 7 なな
- ② 14 じゅうよん
- ③ 21 にじゅういち
- ④ 28 にじゅうはち
- ⑤ 35 さんじゅうご
- ⑥ 42 よんじゅうに
- ⑦ 49 よんじゅうきゅう
- ⑧ 56 ごじゅうろく
- ⑨ 63 ろくじゅうさん
- ⑩ 70 ななじゅう

なお、読み方は一例です。
よ かた いちれい

8 とび

- ① 8 はち
- ② 16 じゅうろく
- ③ 24 にじゅうよん
- ④ 32 さんじゅうに
- ⑤ 40 よんじゅう
- ⑥ 48 よんじゅうはち
- ⑦ 56 ごじゅうろく
- ⑧ 64 ろくじゅうよん
- ⑨ 72 ななじゅうに
- ⑩ 80 はちじゅう

9 とび

- ① 9 きゅう
- ② 18 じゅうはち
- ③ 27 にじゅうなな
- ④ 36 さんじゅうろく
- ⑤ 45 よんじゅうご
- ⑥ 54 ごじゅうよん
- ⑦ 63 ろくじゅうさん
- ⑧ 72 ななじゅうに
- ⑨ 81 はちじゅういち
- ⑩ 90 きゅうじゅう

10 とび

- ① 10 じゅう
- ② 20 にじゅう
- ③ 30 さんじゅう
- ④ 40 よんじゅう
- ⑤ 50 ごじゅう
- ⑥ 60 ろくじゅう
- ⑦ 70 ななじゅう
- ⑧ 80 はちじゅう
- ⑨ 90 きゅうじゅう
- ⑩ 100 ひゃく

10の仲間①

じゅう なかま

1と9で10

いち きゅう じゅう



10は1と9

じゅう いち きゅう

2と8で10

に はち じゅう



10は2と8

じゅう に はち

3と7で10

さん しち じゅう



10は3と7

じゅう さん しち

4と6で10

し ろく じゅう



10は4と6

じゅう し ろく

5と5で10

ご ご じゅう



10は5と5

じゅう ご ご

6と4で10

ろく し じゅう



10は6と4

じゅう ろく し

7と3で10

しち さん じゅう



10は7と3

じゅう しち さん

8と2で10

はち に じゅう



10は8と2

じゅう はち に

9と1で10

きゅう いち じゅう



10は9と1

じゅう きゅう いち

10と0で10

じゅう れい じゅう



10は10と0

じゅう じゅう れい

10の仲間づくり（補数）は、くり上がりの足し算・繰り下がりのひき算など、あらゆる計算に役立ちます。

9と聞けば1、8と聞けば2が連想されるくらい、繰り返し唱えて体に染み込ませましょう。

なお、4、7、9などの読み方は一例です。一斉指導の場で読ませる場合、読み方を統一しましょう。

(参考) 数字と読み 一覧表
さんこう すうじ よ いちらんひょう

数字 すうじ	漢数字 かんすうじ	大字 だいじ	標準読み ひょうじゆんよ	漢音読み かんおんよ	訓読み くんよ
0	〇	零	れい	れい	まる
1	一	壹 壺	いち	いつ	ひと
2	二	弍 貳	に	じ	ふた
3	三	参 參	さん	さん	み
4	四	肆	よん, し	し	よ
5	五	伍	ご	ご	いつ、い
6	六	陸	ろく	りく	む
7	七	柒 漆	なな, しち	しつ	なな
8	八	捌	はち	はつ	や
9	九	玖	きゅう, く	きゅう	ここ
10	十	拾	じゅう	しゅう	とお、そ
20	廿 卅	弍拾	にじゅう	じゅう	はた
30	卅 卅	参拾	さんじゅう	そう	みそ
40	卌	肆拾	よんじゅう, しじゅう	しゅう	よそ
100	百	陌 佰	ひゃく	はく	もも、お、ほ
1000	千	阡 仟	せん	せん	ち
10000	万	萬	まん	ばん	よろず

数字の読み方等を一覧表としてまとめました。

同じ数字にも、読み方が数種類あるのが、日本語の面白いところです。

読み方が複数あることで、数字を用いた語呂合わせを容易にさせています。(例：2を「に」「じ」「ふ」など)

大字は、主に改竄防止のために用いられた数字です。漢字好きな子どもは、喜んで覚えるでしょう。

日にち

ひ

- ① 一日
ついたち
- ② 二日
ふつか
- ③ 三日
みっか
- ④ 四日
よっか
- ⑤ 五日
いつか
- ⑥ 六日
むいか
- ⑦ 七日
なのか
- ⑧ 八日
ようか
- ⑨ 九日
ここのか
- ⑩ 十日
とおか
- ⑳ 二十日 (廿日)
はつか
- ㉔ 三十日 (晦日)
みそか
- ㉕ 大晦日 (12月31日 (新暦) 12月30日 (旧暦))
おおみそか

日にちの読み方は旧暦、つまり月の満ち欠けに由来しています。

(例：月の初めの「月立ち(つきたち)」が「ついたち」と変化)

旧暦は馴染みがうすく、特殊な読み方も多いので、なかなか読み書きが定着しないのが実情です。

したがって、「日にち」をリズム良く読んで、まずは耳から慣れることが大切です。

なお、「二十日、三十日、大晦日」は特別な読み方であり、読みの調子を整えるために加えたものです。

幾つ①

いく

- ① ひ い ○
- ② ふ う ○○
- ③ み い ○○○
- ④ よ お ○○○○
- ⑤ い つ ○○○○○
- ⑥ お う ○○○○○ ○
- ⑦ な あ ○○○○○ ○○
- ⑧ や あ ○○○○○ ○○○
- ⑨ ここの ○○○○○ ○○○○
- ⑩ と お ○○○○○ ○○○○○

幾つ②

いく

- ① 一つ
ひと
- ② 二つ
ふた
- ③ 三つ
みっ
- ④ 四つ
よっ
- ⑤ 五つ
いっ
- ⑥ 六つ
むっ
- ⑦ 七つ
なな
- ⑧ 八つ
やっ
- ⑨ 九つ
ここの
- ⑩ 十
とお

日本に古来からある物の数え方。

⑨「ここの」は単独では「ここ」ですが、続けて読むときは「ここの」や「ここのつ」と読みます。

これによって、最後の「とお」に向かう読みつづの調子よを整えているようです。

なお、物の数え方には、地域により、さまざまな言い回しがあります。

語源も諸説ありますが、難しいことは考えずに読んで、そのリズムを楽しみましょう。

幾つ②は、幾つ①（「ひい、ふう、みい…」）に、「つ」を付けた数え方です。

(調整用ページ)